

ク治療スルコトアルヲ以テ直チニ開腹術ヲ施スベキモノナラズ、然シ患兒ノ容態險惡ナラバ猶豫スルコトナク開腹術ヲ行フベシ。

陰門及腔ノ治療モ亦怠ルベカラズ、更ニ母氏ノ痲疾ニモ亦注意ヲ加フベシ。

其他小兒ニハ稀有ナレドモ腸室扶助、腸結核、胃及十二指腸潰瘍ニヨル穿孔性腹膜炎又腸加答兒、イレウス、ヘルニア、嵌頓ニ依ル急性腹膜炎アレドモ其症狀大同小異ナリ。

二 結核性腹膜炎

一、腸間膜腺結核及後腹膜腺結核 Die Mesenterial- u. Retroperitoneal-drüsentuberculose (Tabes Mesaraica)

本症ハ腸結核ニ續發シテ來リ或ハ腸結核ナクトモ食餌性ニ腸内ニ入りシ結核菌ガ腸間膜ニト居シテ結核病竈ヲ形成スルコト恰モ氣道ニ入りシ結核菌ガ氣管枝腺ニ潜伏スルガ如ク、先ヅ原發性ノ意味ニ於テ來ルコトアリ。

腸間膜腺及後腹膜腺ガ漸々腫大シテ終ニ乾酪變性ニ陥リ相互ニ癒着シテ固塊トナリ腸間膜及大網ノ相互癒着ヲ來タスベシ、故ニ患者ノ腹部ヲ按觸スルニ腹中ニ多數ノ種々ナル形態ヲ有スル堤狀又ハ結節狀ノ抵抗物アルヲ知り得ベシ又壓痛アリ、腹部ハ一般ニ膨隆シ脾臟モ概ネ腫大スルヲ常トス、然シ腹壁ノ緊張ニヨリ腺腫ノ觸診ヲ妨グル

ガ如キコトナシ、後期ニ至レバ消耗熱ノ發現アリテ時々腹ノ深部ニ牽引性疼痛ヲ訴フルモノアリ、腺腫ノ癒着甚シカラズシテ腹部ニ大ナル抵抗ナキ時ニアリテ指ヲ深ク腹部ニ没入スル様ニシテ按診スルニ小腹部ノ或處ニ當リテ特ニ壓ニ對シテ過敏ナル一ニノ結節アリテ患者ハ疼痛ヲ訴フルコトアリ、斯ノ如キハ已ニ腸間膜腺或ハ後腹膜腺ニ結核アルモノナリ、又後期ニ至レバ屢々惡液質、浮腫發現ス。

腹部ノ所見顯著トナル以前ヨリシテ已ニ榮養漸々衰退シ日哺潮熱及速脈等ノ症狀現ハル、モノナリ、發熱ノ訴ナキモノニアリテモ精密ニ體温ヲ計測スレバ必ズ其昇騰ヲ見ルベシ。

腸結核ヲ伴フモノニアリテハ必ズ下痢アルコト勿論ナリ、豫後ハ概ネ不良ナレドモ重症ノモノモ治療スルコトアルナリ。

所謂瘰癧ト稱スルモノハ腸間膜腺結核ナリト云フモ必ズシモ然ラザルカ如ク、他ノ榮養障礙等ノ一部ヲ含メルモノニシテ單位の疾患ニ非ザルナラム。

二、結核性腹膜炎 Peritonitis tuberculosa

小兒ニハ甚ダ多キ疾患ニシテ小兒結核ノ中ニテモ日常最モ多ク見ルモノナリ、臨床的及病理解剖的ニ之ヲ二種ニ分ツ、即チ癒着性、ノモノト滲出性、ノモノト之ナリ。

一 癒着性結核性腹膜炎 Peritonitis tuberculosa adhaesiva 本症ハ其症狀腸間膜腺結核ニ類似ス、然シ其異ナル點ハ本症ニ於テハ主トシテ腹膜自身ノ結核ニシテ腹膜ニ初メ粟

粒大ノ結核菌ヲ生シ漸次増大シテ瀰蔓性ニ傳播スルナリ、而シテ其肉芽物質ハ乾酪變性ニ陥リ肝臓様物質ヲ作り又腸管ヲ相互ニ癒着セシメテ一ノ固塊ヲ作ルベシ、遂ニ全腸管ハ相互ニ又ハ腹壁腹膜ト癒着シ、錯雜紛糾シテ一ノ絲綫ヲ形成スルニ至ルモノナリ、而シテ腸ノ間ニ介在セル乾酪物質ハ軟解シテ或ハ腸内ニ或ハ骨盤腔臓器内ニ或ハ外部ニ破裂スルコトアリ、結核ニ加フルニ化膿菌ノ合併傳染スルアラバ敗血及腐敗傳染或ハ中毒症ヲ惹起スベシ。

症狀 初期ニ於テハ全身倦怠、心悸亢進呼吸促迫ノ不定自覺症ヲ以テ始マリ、其中ニ輕微ノ發熱ヲ不知ノ間ニ發見シ得ベシ、腹部ハ漸次膨隆シ周圍ノ人々甫メテ驚キ醫門ヲ叩クモノナリ。

腹部ヲ打診スルニ處々ニ限局セル濁音ヲ呈スル部アリ又其傍ニ鼓音ヲ呈スル部アリ、觸診スルニ腹部ハ一般ニ抵抗強キ感アリ、強ク壓セザレバ容易ニ深部ヲ探グル能ハズ、壓痛ハ存スルコトモアリ又缺クコトモアリテ一定セズ、屢々臍ノ上部ニ當リテ斜ニ腹部ニ横ハル長キ壓痛アル枕狀物質ヲ觸ルルコトアリ、又臍部ノ附近ニアリテ腹壁ノ直下ニ種々ノ大サヲ有スル腫瘍狀ノ結節ヲ觸ルルコトモアリ。

自發性腹痛及一時性痙攣アルコトモ亦屢々ナリ、發熱ハ大抵之ヲ伴ヒ全經過中ニハ無熱ト消耗熱ト交互ニ發現スルモノナリ、大便ハ便秘スル時期モアリ又多少下痢スルコトモアリ、腸結核ヲ有スルモノハ必ズ頑固ナル下痢ヲ伴フヲ常トス、灰白色ノ脂肪便モ

亦時々見ラルルコトアリ、尿中インデカンノ増加ヲ見ルコト多シ。

經過 腹部ニ結節ヲ認ル頃ヨリシテ患兒ハ榮養衰へ食慾缺損シ漸次高度ノ瘦削ヲ來タスニ至ル時トシテ眼結膜及角膜ニフリクテーン生シ頸腺腫張ヲ來タスコトアリ、更ニ屢々存スルハ肋膜炎及肺結核ノ合併ナリトス、斯ノ如キニ至レバ漸々衰弱シ粟粒結核及腦膜炎ノタメニ早晚死ヲ免ルル能ハズ。

腸結核ヲ伴フモノハ其經過早ク、化膿菌混合傳染アルモノモ亦死ヲ免レズ、若シ輕快スルトキハ發熱消失シ腹部結節モ亦吸收セラル、一時的ナリトモ、全然治癒スルコトハ稀有ナレドモ亦アルモノニシテ結核性腹膜炎ガ治癒セズト考フルハ、誤認ナリトス。

診斷 本症ノ診斷ハ左程困難ナラズ、腹部ニ於ケル移動性少ナキ多數ノ結節ト特ニ大網ノ肥厚セル點ト全身容態及其他ノ局所ノ淋巴腺腫張等ヲ併セ考フベシ、疑ハシキトキハツベルクリン皮膚反應ヲ試ムベシ。

誤リ易キハ肉腫、癌腫及卵巢大網、腸間膜ノ囊腫等ナリトス、
豫後ハ腸間膜腺結核ニ類ス。

二 滲出性結核性腹膜炎 Peritonitis tuberculosa exsudativa 本症ハ腹膜ニ生ジタル粟粒結核ガ癒着性ノモノノ如ク乾酪變性ノ傾向ヲ有セズ伴フニ多量ノ滲出液ヲ以テスルモノナリ。

症狀 發病ハ潜伏性ニシテ初期ニ於テ輕微ノ腹痛發熱時ニ嘔吐ヲ來タス其中ニ腹部漸々膨隆シ數週又ハ數ヶ月ノ間他症狀ヲ生ゼズ腹部膨隆著シキニ至レハ腹壁緊張シテ皮膚光澤ヲ有シ臍窩消失スルニ至ル打診及觸診ニヨリテ明ニ運動性ノ液體滯留ヲ證明シ得ベシ滯留ニハ消長アリテ一時液體吸收サレテ腹部縮少シ又再ビ膨隆スルコトアリ

患兒ノ榮養ハ普通餘リ衰ヘズ比較的健全ニ見ユルモノナリ又他ノ腺及臟器ニ結核ヲ合併セザルモノ多シ然レドモ時ニ後期ニ至リ榮養甚シク衰ヘ瘦削シ膨大ナル腹ヲ擁シテ呻吟スルモノモアルナリ何レノ場合ニモ大抵日哺潮熱ヲ伴フヲ常トス

診斷 小兒ノ腹腔ニ液體滯留アルハ大抵結核性腹膜炎ナレドモ疑ハシキトキハツベルクリン反應ヲ試ムルヲ怠ルベカラズ結核性滲出液ニ特有ナルハ淋巴細胞ニ豐富ナルコトニシテ結核菌ハ困難ナレドモアンチフォルミン法及天竺鼠腹腔内注射ニヨリテ證明シ得ベシ

類症鑑別

イ 肺炎、菌性、腹膜炎、發病ノ急性ナル事ト穿刺液中ニ肺炎菌診斷甚ダ容易ヲ證明シ腹腔液ハ全ク膿性ナル事トニヨリテ分チ得ベシ

ロ 心臓及心囊疾病、心臓部ノ所見ト穿刺液ノ滲出液ナル事ニヨリテ結核性ノ滲出液ト區別シ得ベシ結核菌及白血球ニ乏シキハ滲出液ノ性質ナリ

臨床上簡單ナル區別ハリヅワルタ氏法 Prode von Rivalta ナリ

一ノ試験管ニ略二〇〇延ノ水ヲ盛り之ニ二三滴ノ醋酸ヲ入レ被檢液ノ一滴ヲ上ヨリ落下セシムベシ若シ滲出液ナラバ白色ノ濁濁生ジ漸次下底ニ沈降スベシ滲出液ハ濁濁ヲ生ズルコトナシ

其他

- (一) 比重ハ滲出液ニ於テハ通常一〇一八以上ヲ算シ滲出液ニ於テハ一〇一二以下ナルコト多シ
- (二) 蛋白量ハエスバツハ氏或ハローベルト氏法ニヨリテ見ルベク滲出液ハ四一六%ヲ算シ滲出液ハ二%以下ナリ
- (三) 細胞含有量ハ滲出液之ニ富ミ白血球多シ特ニ結核性ノモノ淋巴球ニ富ム

ハ 肝、臟、硬化、症、腹壁靜脈ノ擴張著シク又腹水ヲ除キテ肝臟ノ萎縮スルヲ以テ知ルベシ

ニ 腎、臟、炎、尿ニ蛋白及圓柱アルト腹水ノ滲出液ナルトニヨリテ區別スベシ

ホ 假、性、腹、水、Pseudocysts 榮養障碍ノ際ニ來ルモノニシテ腹水アルガ如キ腹部膨隆ヲ來タスモノナリ初メテトブレル氏之ヲ報告ス腹部膨隆濁音濁音轉換アリタル患者ヲ

氏ハ結核性腹膜炎ト確診シ外科醫ツエルニ及ロツセン氏ニヨリテ開腹術ヲ施セシ

ニ腹水ヲ見ザリシ五例ヲ報告セリ其後ハ一ター氏又類例ヲ報告セリ斯ノ如キ疾病ハ

試験的穿刺及ビルケ氏反應等ニヨリテ區別スベシ

豫後 癒着性ノモノヨリモ遙ニ良好ナリ全然治愈セシ例ニ乏シカラズ

結核性腹膜炎患ノ療法 患兒ニハ安臥靜養ヲ命ジ食慾尋常ナルモノニハ普通食以外ニ成ル可ク強壯滋養ニ富ムモノヲ與ヘ又肝油ヲ飲マシムベシ食慾不振ナルトキハ牛乳、ソツプ、雞卵粥、ソツプオジヤ等ノ外、ソマトーゼ、小兒粉等ヲ與フベシ。

腹部ニハ温布温濕布、灰爐ヲ當テ又ハ熱氣療法ヲ試ムベシ。

全身及局所日光浴ハ甚ダ有效ノモノナルコト一般ノ認ムル所ナリ、風波荒カラザル海邊又ハ適當ナル高地ニ療養スルモ亦效能アリ。

藥劑ハ、グアヤコール(一日〇・一乃至〇・二)、チオコール(一日〇・一〇・一五)及ブノイミン、フアゴール等ヲ用ヒ、腹部ニハ三%薄荷精阿列布油、三%薄荷精肝油、イヒチオール、ヨードワゾグーン又ハ加里石鹼ヲ塗擦スベシ。

若シ下痢アルトキハ阿片及タンナルピンヲ投ジ腹部ヲ暖ムベシ。

腹水穿刺ハ決シテ行フベカラズ。

近時結核性腹膜炎ニ對シテ開腹術ヲ行ヒテ奏効スト稱スル人多ク、滲出性ノモノニハ液ヲ出シ、其他ノモノハ單ニ腹腔ヲ開クノミカ或ハ中ニ、ヨードフォルム又ハ酸素ヲ送入スル法ヲ行フナリ、之レ腹膜炎ニ刺戟ヲ與フルタメニ其處ニ鬱血ヲ起スガ故ニ有效ナルモノト云ヒ或ハ日光ニ當ツルガ故ニ結核ニ有效ナリトモ云フ。

ツベルクリン注射療法ハ腸間膜腺結核ニハ効アルベキモ腹膜炎ニハ左程奏効顯著ナラザルガ如シ。

三 腹膜腫瘍

良性腫瘍ニテハ最モ多キハ腹膜及腸間膜ノ囊腫ニシテ淋巴囊腫、乳糜囊腫、皮様囊腫等數ヘラル。

悪性腫瘍ニテハ肉腫、内皮細胞腫及癌腫ナリトス。

第六章 肝臟疾患

一 加答兒性黃疸 Icterus catarrhalis

加答兒性黃疸ハ小兒ニ於テモ亦稀有ノ疾患ニ非ズ、二年以上ノ小兒ニ多クシテ哺乳兒ニハ稀有ナリトス、主トシテ學齡以上ノ小兒ニ多シ。

症狀 突然ニ發スルモアリ或ハ鼻咽頭加答兒及他ノ腸胃疾患ニ續發スルコトモアルナリ。

二三日ノ中ニ全身ニ黃疸性着色現出シ、食慾減退シ舌苔アリ、時トシテ皮膚ニ搔痒ノ感アリテ爪ニテ搔キ所々ニ膿性結痂ヲ形成スルコトアリ、七八歳以上ノ小兒ニテハ遲脈ヲ見ルヲ常トス。

便ハ臭氣甚シク灰白色ニシテ膽色素ニ乏シ。

尿ハ泡沫ニ富ミ膽色素ヲ證明シ得。

膽色素試驗 黃疸尿ハ黃褐色又ハ褐色ニシテ恰モビールノ如キ色調ヲ有シ、振盪スルトキハ黄色ノ泡沫ヲ生ズルヲ以テ特徴トス。

(一)グメリン氏ノ試驗 二—三立方錠ノ稀硝酸ニ一—二滴ノ發烟硝酸ヲ混シ被檢尿ヲ靜ニ重疊スベシ、膽色素ヲ含ムトキハ上方ヨリ綠、藍、紫、紅、黃等ノ順序ヲ以テ色輪ヲ生ズベシ之レ、ビリンガ硝酸ノタメニ、ビルヴェルヂンニ酸化サレタルガ爲ニシテ綠色及紅色輪ヲ以テ特有トス。

(二)フツペルト、ザルコ、スキ、氏ノ法 一〇—一五〇立方錠ノ尿ニ一—五立方錠ノ鹽化カルシウム液ヲ加ヘ炭酸曹達液ヲ以テ強アルカリ性トシ、析出セシメタル沈澱物ヲ濾紙上ニ集メ水ヲ以テ三四回洗滌シ、殘渣ヲ試驗管ニ移シ四—五立方錠ノ酒精及數滴ノ濃鹽酸ヲ加ヘテ煮沸スベシ、膽色素アレバ鮮美ナル綠色ヲ呈ス、之ヲ冷却シ稀硝酸ヲ少シツ、滴加スルトキハ綠色素ハ更ニ酸化セラレテ青色トナリ次テ紫色、終ニ赤色トナル。

(三)中山氏ノ法 五立方錠ノ酸性反應ヲ呈スル黃疸尿ニ同容量ノ一〇%鹽化バリウム水溶液ヲ混シテ暫時遠心シ上澄ヲ傾瀉シ、殘渣ニ約二立方錠ノ試藥九五%ノ酒精九立方錠ニ一立方錠ノ發烟鹽酸及〇四瓦ノ無水過鹽化鐵ヲ溶シタル液ヲ混シテ煮沸スルトキハ美麗ナル綠色ヲ得、此液ニ亞硝酸ヲ含メル硝酸黃色ニ染メル硝酸ヲ少シツ、追加スルトキハ紫色トナリ次テ紅色ニ變ズ。

(四)一〇—三〇立方錠ノ尿ニ一 $\frac{1}{10}$ — $\frac{1}{20}$ 容積ノ稀鹽酸ヲ混ジ次テ $\frac{1}{10}$ 容積ノ鹽化バリウム液

ヲ追加シ、膽色素ヲ硫酸バリウムト共ニ析出セシメ、數分時ノ後成ル可ク緻密ナル濾紙ヲ以テ濾過シ、沈澱物ヲ濾紙上ニ集メテ一—二回水洗シ、殘渣ヲ他ノ濾紙ニヨリ水分ヲ吸收セシメ亞硝酸ヲ有スル稀硝酸ヲ滴加スベシ、若シ膽色素ヲ含ムトキハグメリン氏法ノ如ク外圍ハ綠色ニシテ内圍ハ紅色ナル彩輪ヲ生ズベシ、此反應ハ鋭敏ニシテ見易キ法ナリ(須藤博士醫學實習ニ據ル)。

經過 良好ニシテ一—二週間ニシテ全治ス時ニハ長ク連續シテ容易ニ治癒シ難キコトアリ、疽毒症ヲ起スコトハ稀ナリトス。

療法 食餌ヲ撰擇スベシ、蛋白及脂肪ヲ少ナクシ含水炭素ニ富メルモノヲ與フベシ、水分ニ富メル食餌ハ良シ、麥湯、茶及牛乳、脫脂乳及牛酪乳ヲ宜シトス、多ク與ヘ、副食物モ味噌汁ノ如キモノヲ盛ニ與フベシ(俗ニ覗汁ヲ多ク食スルトキハ黃疸ニ宜シト云フハ故アルコトナリ)、獸肉及魚肉ヲ少ナクシ、馬鈴薯、青菜、大根等ヲ主トスベシ、果實、リモナーデノ類ハ賞用スベシ。

藥劑ハ人工カル、ス、泉鹽、甘汞、重酒石酸曹達、大黃等ヲ與フベシ。

人工カル、ス、泉鹽

四〇〇

右茶碗一杯ノ微温湯ニ溶解シ、毎朝空腹時ニ服用スベシ。

重酒石酸曹達

一〇〇—二〇〇

餾水

一五〇〇

右一日三四回宛一〇〇ツ、服用

肝臟疾患

二 傳染性黃疸 (Weilsche Krankheit)

原因 ワイル氏病ノ原因ハ未ダ不明ニシテ且單位的疾病ナルヤ否ヤモ疑問ニ屬ス從
來ノ研究ニヨレバ大腸菌屬或ハ變形菌屬最モ注目サル、モノナルガ如シ。
グリユーンバウム及ツブニツク氏等ハ黃疸患者ノ血清ハ、チフス菌ニ凝集反應ヲ呈シ、
又ネツテル氏ハ、バラチフス菌ニモ凝集反應ヲ呈スル事ヲ發見シ、ワイル氏病モ亦チフ
ス菌ト關係アラムヲ疑フ人アレドモ黃疸性血清ノ、チフス菌ニ凝集反應ヲ呈スルハ傳
染性黃疸血清ニ限ラザルガ如シ。

而シテホイブネル氏ハ病源ガ十二指腸ヨリ膽管ヲ經テ侵入スルモノナラトシ、ピツ
ク氏ハ細菌、プトマイン及菌毒素ガ腸ヨリシテ門脈系統ヲ經、肝臟ニ侵入シテ肝臟細胞
ヲ障害シ其分泌物ヲ腸ニ出デシメズ却テ血中ニ送ルモノナルヲ信ズ。

ワイル氏病ハ都市及家族ニ流行性ニ發スルモノニシテ我九州ニモ發生セリト傳ヘラ
ル、然レドモ九州ノモノハワイル氏病ニ非ズシテ所謂黃熱 (selbes Fieber) ナリトモ云フ、
小兒ニ於テハ三歳以上ノモノ、特ニ十歳以上ノモノニ多キガ如シ。

症狀 突然惡寒戰慄ヲ以テ初マリ忽チ發熱、現ハル(三十九度或ハ其レ以上)同時ニ大抵
ハ、四肢ノ、筋痛、及、倦怠、感、ヲ伴フヲ常トス、大便ハ下痢ヲ來タスモノ多ク便秘スルモノ

少ナシ、其他安、魏、那、及氣管、枝、炎、ヲ合併スルモノアリ。

二三日ニシテ皮膚ニ黃疸、現ハル其度ハ一定セズ、尿、ハ褐色ニシテ膽色素、膽酸、時トシテ
蛋白ヲ含ムコトアリ、大便、ハ灰白ニシテ臭氣甚シク脂肪含有量ニ富ム。

肝、臟、ハ腫脹シ壓痛アリ、脾、臟、腫脹モ亦見ルコトアリ。

脈、搏、ハ年長ノ小兒ニアリテハ大人ノ如ク遲脈ヲ呈シ稍々不規則ナレドモ年少ノモノ
ニハ遲脈著シカラズ。

經過 數日ニシテ發熱消失シ黃疸モ亦概シテ治癒スルモ時トシテ數月ニ亘リテ治癒
セザルコトアリ。

診斷 流行性ニ發熱ヲ伴ヒテ突發スル黃疸ハワイル氏病ノ中ニ數フベシ、然レドモワ
イル氏ノ初メテ報告セルモノハ高熱及神經症狀ヲ伴フ重症ノモノナリ、所謂ワイル氏
病ニ輕重アリテ流行性ニ來ルモノヲ悉クワイル氏病トシテ論ズル學者多シ。

黃熱 Gelbes Fieber, Eber's Hava, Yellow fever キューバ島セントドミンゴ及亞弗利加ニ多キ疾病
ニシテ發作性發熱黃疸蛋白尿重症ノモノハ痙攣昏睡及吐血ヲ來タス、其原因ハ不明ナリ、黑人
及蒙古人種ハ感受性ナシト云フモ必ズシモ然ラザルガ如シ、ワイル氏病ト異ナル點ハ發熱ノ
發作性ナルト吐血等ノ症狀アルトニアリ、又重症麻刺利亞トハ、マラリヤプラスモジウムノ存
否ニヨリテ區別シ得ベシ。

豫後 此疾病ハ概ネ良性ノモノナレドモ時ニ痙攣昏睡ニ陥リテ死スルモノアリ。

療法 脂肪分多キ食物ヲ避ケ重湯稀粥、粘滑汁、稀釋セル牛乳、脫脂乳ヲ與ヘ、「パン」及野菜ハ勸メテ與フベシ、藥劑ハ下劑ヲ重ンズ、便通ナキトキハ必ズ灌腸ヲ施スベシ。

大黃浸(五・〇) 一〇〇・〇

單舎 二〇〇・〇

右二時間毎ニ一〇・〇ツ、服用スベシ。

其他稀鹽酸、リモナーデヲ與フベシ、烈シキ下痢アリテ惡臭甚シケレバ「ザロール」或ハ「ザラツエール」(〇・二五—〇・五一日三回)ヲ與フベシ。

三 急性黄色肝萎縮 Acute gelbe Leberatrophie

小兒ニハ稀有ノ疾患ニシテ其原因ハ不明ナレドモ細菌ニ因ル傳染性疾患ナラム、時トシテ丹毒、腸室扶斯、骨髓炎及膿毒症等ニ續發スルコトアリ。
初メハ加答兒性黃疸ノ如ク黃疸及肝臟ノ腫大、壓痛ヲ伴フ、然シ高熱アリテ其中ニ神經症狀、譫語、痙攣、昏睡ヲ發シ、一週間位ニシテ急ニ肝臟萎縮ヲ來タシテ死スルモノナリ。

四 肝臟脂肪變性 Die fettige Degeneration der Leber

急性又慢性傳染性疾患、新陳代謝病及栄養障礙ニ見ル、哺乳兒ニテハ肺炎及消耗症ニ多

シ。

黃疸ハ之ヲ缺キ肝臟ノ腫大アリ。

五 澱粉様肝 Amyloidleber

骨及腺結核ノ際ニ多シ、其著シキトキハ肝臟甚シク腫大シ其硬度固ク縁邊ハ鈍圓トナル、全身ハ漸々惡液質ニ陥ルベシ。

六 肝臟膿瘍 Leberabscess

原因 赤痢、アメーバ赤痢、外傷、腸室扶斯結核、臍靜脈炎、インフルエンザ及膿毒症ニ續發ス、特ニ蟲様突起炎及蛔蟲ニ因ルコト多シ(蛔蟲ガ輸膽管ヨリ侵入シ肝膿瘍ヲ起スナリ)。
症狀 發熱ハ必發ノ症狀ナリ、肝臟部ニ於ケル疼痛又壓痛、肝臟腫大アリテ其著シキトキハ腹部ノ右季肋部膨隆シ波動ヲ呈スル腫瘍ヲ觸ル、黃疸ハ發現スルコトモアリ、又否ラザルコトモアリテ一定セズ。

診斷 膿瘍ガ比較的小ニシテ肝臟ノ深部ニ潜ムトキハ診斷困難ナリ、又横隔膜下膿瘍ト區別スルハ實ニ至難ノ事ニ屬ス。
療法 外科手術ニ據ルノ外ニ途ナシ。

七 肝硬化症 Lebercirrhosen

肝硬化ハ小兒ニ於テハ稀有ナリ、之レ大人ニ於ケルガ如キ、アルコール飲料ヲ嗜ムモノノ少ナキニ因ルナルベシ、小兒ニ於テハ微毒ニ發スル肝硬化症アレドモ微毒ノ條下ニ於テ述ブベシ、其他ハ主トシテ猩紅熱、實扶の里及麻疹ニヨリテ起ルモノナリ、本章ニ於テハ病理解剖的ニ之ヲ四項ニ分チテ論ゼントス。

一、萎縮性肝硬化症 Die atrophische Zirrhose (V.エンネツク氏肝硬化症)

(Laenneche Zirrhose)

小兒ノ「アルコール」ヲ嗜ムモノニ起ル、從テ我邦ノ兒童ニハ稀有ノ疾病ナリトス。

症狀 初メ消化障礙、食慾減退、鼓腸及便秘等ノ前驅期ヲ以テ始マリ又下痢ト交互ニ來ルコトアリテ小兒ハ瘦削ニ陥ルベシ、漸々腹水及脾臟肥大、現出シ腹部ハ膨隆シテ腹壁靜脈、怒張ヲ來タスモノナリ、皮膚ノ色ハ一般ニ汚黃色ヲ呈ス、黃疸ノ存在ハ一定セズ存スルモ輕度ニ過ギズ、出血ハ吐血、衄血、下血トシテ經過中ニ來ルコト多シ、肝萎縮ハ腹水穿刺ノ後打診及觸診ニヨリテ始メテ知り得ベシ。

經過 大人ノモノヨリモ短ク、最後ニハ急性肺水腫ニテ斃ル、ナリ。

診斷 結核性腹膜炎トハ腹壁靜脈ノ怒張及他ニ結核性症狀ノ存セザルヲ以テ分チ得

ベシ。

二、肥大性肝硬化症 Die hypertrophische Zirrhose (ハノー氏肝硬化症)

(Hanolsche Zirrhose)

小兒ニハ萎縮性ノモノヨリモ屢々見ラル、モノナリ其原因不明ナリ。

症狀 慢性ノ劇甚ナル黃疸、現ハレ肝臟及脾臟ノ腫大ヲ來タスモノナリ、腹水ハ全然缺如スルコトモアリ又現ハルモ後期ニ來ルナリ、肝臟ハ硬キコト木ノ如ク、脾臟ハ時トシテ臍ヲ越ユル迄腫大スルコトアリテ白血病脾臟ノ如キコトアリ、又手指、足趾及關節ノ變形ヲ來タシ身體ノ發育阻止セラル、コトアリ。

經過 長ク大抵數年ニ亘ル。

診斷 バンチ氏病トハ發病ノ模様ヲ察シ病理解剖ヲ俟テ初メテ知り得ベシ。

三、鬱血性肝硬化症 Die Blutsstaunungszirrhose

之レ殆ンド肝臟ノ疾病ト云フヲ得ズ、心囊癒着ノタメニ靜脈系統ニ鬱血ヲ生ジ而シテ肝硬化症ノ症狀ヲ來タスナリ、瘦麻質斯及結核ノタメニ心囊ノ兩葉ノ癒着ヲ起スナリ、故ニピツク氏ハ心囊炎、性、假性、肝硬化症、pericardische Pseudolebercirrhoseト云ヘリ。

症狀 腹水顯著ニシテ外ニ著シキ症狀ヲ見得ザル程ナリ、然レドモ注意シテ見ルトキハ肝臟ハ肥厚シテ其表面滑平ナルカ又ハ多少凹凸アリ、脾臟モ亦腫大ス、上行大靜脈系統モ鬱血ヲ來タスガ故ニ同時ニ顔面ノ浮腫、口唇ノ「チアノーゼ」、呼吸促進、頸靜脈ノ怒張

アリ。 障後 勿論不良ナリ。

四、先天性膽道閉塞ニ因ル肝硬化症 *Zirrhose durch congenitale Obliteration der Gallengänge*

總輸膽管ニ纖維性閉塞アリ又膽囊缺損スルコト等ニヨリテ起ルモノナリ、肝臟腫大シ小ナル凸隆ヲ生ジ表面ノ漿膜ハ肥厚シ纖維性滲出物アリ、時トシテ囊腫ヲ形成スルコトアリ、小兒ハ生レナガラニシテ黄疸ヲ有シ又ハ生後二三日ニシテ黄疸ヲ發ス、腹部ハ膨隆ス、大抵中毒症狀ヲ伴ヒ瘰癧臍出血、吐血ヲ來タスモノナリ、若シ永ク生命ヲ保ツラ得バ腹水現出ス。

肝硬化症ノ療法 腹水甚シケレバ暫時苦悶ヲ免レシムル爲ニハ穿、刺、ヲ施スベシ、藥劑モ症候的ノモノナレドモ甘汞、重酒石酸曹達ヲ用フベシ。

外科手術ヲ施スヲ得バ之ニ過ギタルハナシ、タルマ氏手術等實用セラル。

膽道疾患

先天性膽道閉塞

本邦ニ於テモ其報告ニ接スルコト稀有ニ非ズ、即チ一種ノ畸形的ナル膽道ノ先天的閉塞ナリ膽道全然缺損スルカ或ハ纖維閉塞ヲナスモノナリ、瘰癧トハ關係ナキモノノ如シ。

症狀及經過ハ前述ノ肝硬化症ノ部ニアリ。

八 肝臟腫瘍

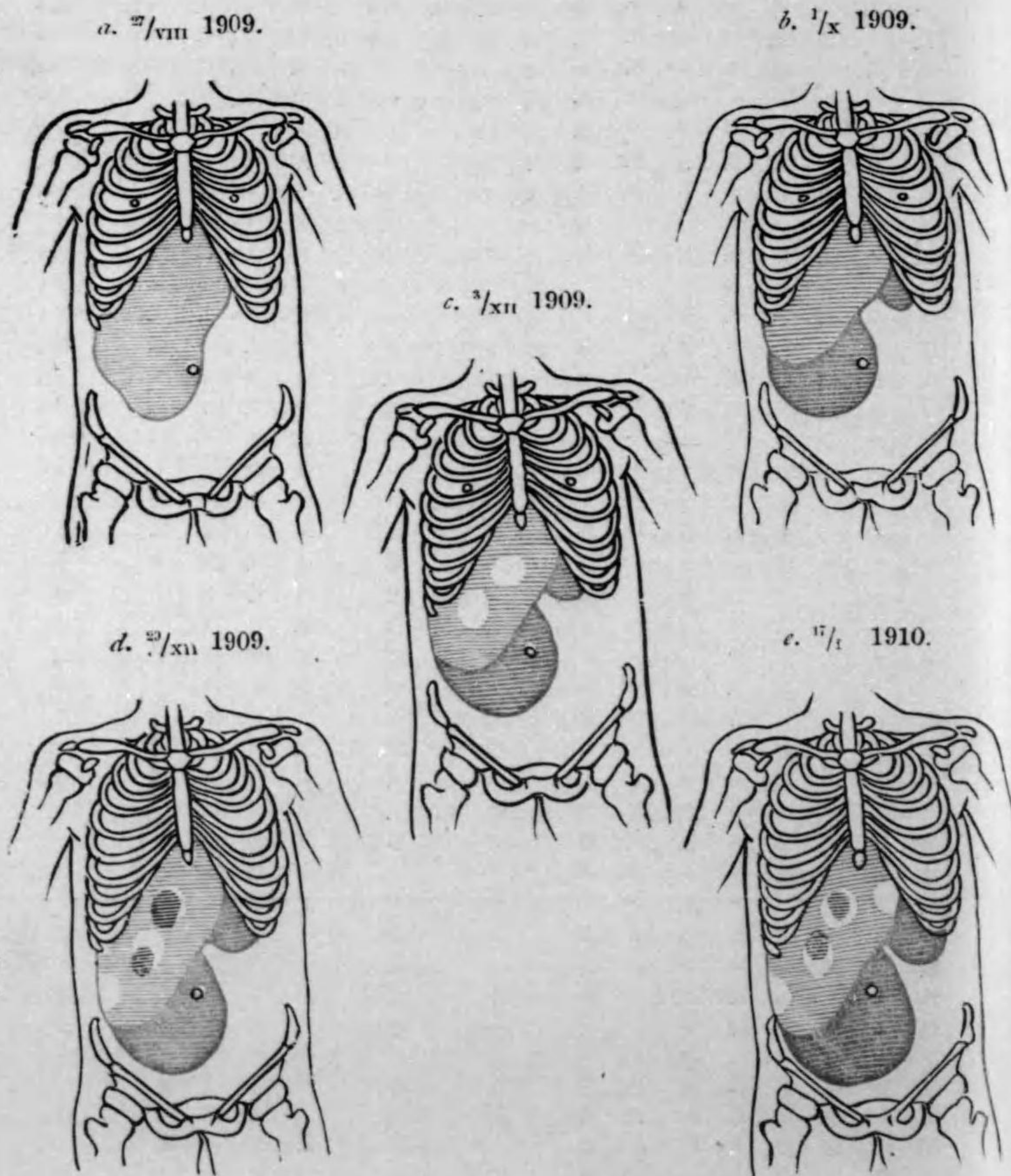
- 一、囊腫、 囊腫肝トシテ現ハルモノニシテ稀有ナリ。
 - 二、肉腫、 發生スルコトアレドモ稀有ノ疾患ナリ。
 - 三、癌腫、 小兒ニハ癌腫ハ一般ニ稀有ノモノトセラレ、續發性ノモノハ腎臟及副腎癌ノ轉移性ニ肝臟ニ來リシモノナリ。
- 原發性肝臟癌ハ大人ニ於テモ我邦ニ於テハ從來考ヘシ如キ稀有ノ疾患ニ非ザルガ如ク(入澤博士)小兒ニ於テモ必ズシモ稀有ト云フ事ヲ得ズ、曩キニ明治四十三年四月余輩ノ(乳兒ノ原發性肝臟癌)ヲ報告出デシヨリ長澤氏ノ類症之ニ嗣ギ(明治四十四年一月)更ニ本年三月ニ於テ再ビ余輩ノ報告出デタリ、隨ツテ吾人啞科醫タル者モ小兒癌ニ就テ其臨床的判定ヲ謬マラザルコトニ留心スベキ秋來レリト謂フ可キ也、故ニ余輩ノ經驗セル二例ヲ掲ゲテ之ニ應ゼムト欲ス。

乳兒ノ原發性肝臟癌(内海學士ト共同)

戊申春某月、我邦ニ於テ癌研究會設立ノ議アルヤ余輩之ニ與リ、一夕借樂園ニ會セルノ際私カニ思惟スラク我邦ニ於テモ亦小兒ニ癌テフ病ナカルベカラズ、然ルニ余輩小兒科ヲ專攻スル

第八十七圖

肝臟疾患



五四一

肝臟疾患

五四〇

者未ダ之ニ接セザルハ遺憾ナリ、精査多年忘ルコトナクンバ之ヲ發見スルノ機アルベシト
 此念ハ余輩ヲシテ日本小兒科學會第十三回總會ニ於テ小兒ノ腎臟肉腫ヲ述ベシムルニ到リ
 テ聊カ其端緒ヲ發セリ、此ノ如ク同學諸氏ノ注意ヲ喚ブアラバ何レノ處ニカ密現ハル、ナラ
 ムト期待セリ
 爾來年月ヲ經ルコト久シカラズシテ我小兒科教室内ニ現ハレ茲ニ第十五回總會ニ於テ同學
 諸氏ニ向ヒ之ヲ報道スルノ喜ヲ得ルハ望外ノ光榮ナリトス
 文獻ニ徵スルニ小兒ノ肝臟癌ハ其原發性タルト續發性タルト問ハズ共ニ大人ノモノニ比
 スレバ極メテ少數ニシテ原發性ニ限レバ甚ダ少ク年齡ヲ二年以下ニ限レバ益々少ク、西曆千
 九百二年オイゲンシュレエジンゲン氏ニ據レバ四例ノ報告アリトナシ、降リテ千九百六年ニ
 至リマツキス、ブラウト氏ハ自個ノ實驗ヲ加ヘテ第五例ニ達セリトナス
 一年以内ノ乳兒ニ就テハ原發性肝臟癌ノ報告僅ニ二例アル而已、然カモ其一例ハシユレエジ
 ンゲル氏ノ護謨腫タルヲ疑フモノナリ
 我邦ニ於テハ余輩未ダ此種ノ報告ヲ搜索シ得ズ、我小兒科教室ニ於テモ最初ノ例ナリトス、
 此ノ如ク極メテ稀有ナルヲ以テ余輩ハ主トシテ臨床的實驗ヲ報道セムトス、病理的研究ニ至
 リテハ山極博士ノ詳細ナル觀察ニ讓ル
 是ヨリ病歴ヲ述ベム
 患者 中〇〇サ 生後九ヶ月 家業表具師 東京本郷住
 四十二年八月二十日入院

肝臟疾患

血族關係 一族中、腫瘍ヲ、嚔、ミタル者、ナク、微毒ノ遺傳ナシ、母系ノ祖父母ハ肺結核ニ罹レタリト云フ

既往症 成熟平産兒、母乳榮養、種痘未済、麻疹ヲ經過ス、其他曾テ著明ノ疾ヲ患ヘズ、生來身體ノ發育良ナリシ、四十二年七月頃ヨリ兒ハ不機嫌トナリ漸次ニ羸瘦シ且蒼白トナレリ、然レドモ黃疸ヲ起セルコトナク、大小便ニ就テハ異常ナカリシ、八月上旬醫療ヲ請ヒシニ初メテ右側季肋部ニ於テ腫瘍ノ存スルヲ認メラレタリ爾後益々腫大ノ傾向アリト云フ、其後下痢便トナレリ但シ便色黃ナリ

現症 體格中等大、榮養不真、羸瘦甚シク、皮膚蒼白、乾燥、浮腫、黃疸等ナシ、體溫三十六度八分、脈性良ニシテ一分間ニ百三十一、呼吸數三十六、顔面普通、意識鮮明

頭形ニ異狀ナク、大顎門約閉鎖シ、眼、鼻、耳ニ異常ナク、口圍ニ輕度ノ「チアノーゼ」アリ、舌ニ苔ナシ、咽頭ニ異狀ナク、頸部淋巴腺ノ數個、豌豆大ニ腫起セルヲ認ム

胸部ノ形狀普通、肺臟ニ異常ナク、胸部ノ膨滿極メテ高度ニシテ殊ニ右側季肋部ニ著明靜脈ノ怒張ナシ、腹部ヲ觸診スルニ第八十七圖ニ如ク其右上半部ニ於テ硬固ナル腫瘍ノ存在スルヲ知ル、而シテ其表面ハ平坦ナラズシテ處々ニ凹凸アリ邊緣ハ銳利ニシテ呼吸ニ際シテ明カニ轉置セリ、腫瘍部ハ壓痛ナク打診ニ依リテ濁音ヲ呈シ而シテ肝臟濁音ニ移行セリ、腎臟部ニハ濁音ヲ認メズ、腫瘍ノ位置ヲ觸診スルニ上ハ肝臟ト連結シ下ハ哈シト右腸骨高二邊シ、左端ハ左乳腺ト左季肋弓トノ交叉點ノ傍近ヨリ斜ニ臍ノ左端ヲ廻リテ右腸骨高二邊シ、右端ハ右腸骨ノ上縁ヲ越エテ斜ニ背部ニ上リテ約第十二肋骨端ニ達セルガ如シ、腫瘍ハ皮膚ト癒著セズ、微カニ脾尖ヲ觸ル、コトヲ得、其實軟ニシテ壓痛無シ、腹水無シ、鼠蹊腺ハ

豌豆大ノモノ數個ヲ觸知ス

項部、脊椎ニ異常ナシ、四肢ノ運動自在、浮腫無ク、膝蓋反射尋常

尿ハ透明ニシテ反應ハ酸性、淡黃色、蛋白、糖及膽色素陰性、鏡檢上異物ヲ見ズ、體重五千九百瓦

處置 純百弗聖、腹部ノ濕布繃帶、母乳榮養

經過

八月二十八日 便通二回、水様黃色便、體溫三十五度二分乃至三十六度八分、脈數ハ一分時ニ百二十五、嘔吐二回

九月三日 嘔吐二回、綠色ナル粘液及顆粒ヲ混シタル水様便

九月六日 腫瘍前ノ如シ、皮膚ハ蒼白加ハル

九月十日 腫瘍ノ狀況依然タリ、體溫尋常、皮膚ノ蒼白色顯著

處置 「アルセニフェラトール」

九月十四日 尿検査異常ヲ認メズ

九月十七日 水様便三回

母乳ノ他ニ牛乳(2:1)一回量百ccヲ一日ニ一回與フ

九月二十一日 體重五千四百五十五瓦、羸瘦著明トナレリ、皮下脂肪組織及筋肉弛緩

處置 硝蒼

九月二十五日 體溫依然トシテ尋常、稀粥様便三回

九月二十八日 稀粥様便

肝臟疾患

肝臟疾患

處置 甘素ニ轉方

十月一日 脈數ハ一分間ニ百二十四乃至百四十、腫瘍部、チ觸ルルニ階、段、狀、ヲ、爲、シ、上、下、ニ、分、カ、レ、而、シ、テ、膨、大、シ、タルヲ認ム、上、下、部、ハ、邊、緣、銳、利、ナリ、(第八十七圖b)、體重五千四百瓦

十月六日 羸瘠益々著明、蒼白益々増加、腹部靜脈ノ怒張ヲ認ム、但シ輕度ナリ

十月十五日 腫瘍ノ増大セルヲ認ム、殊ニ右半ニ著明ニシテ其下端ハ右腸骨高ニ益々進入セリ

十月十八日 體重四千八百瓦

十月二十日 檢尿セシニ蛋白陽性、少數ノ膀胱細胞ヲ認ム

十月二十二日 腫瘍ハ漸次増大セリ

十一月一日 體重五千百瓦

十一月五日 口唇ニ輕度ノ「チアノーゼ」アリ

十一月九日 惡液質増加セリ、吐乳一回

十一月十五日 腫瘍一層増大シ其硬度ヲ増セリ、吐乳一回、體重五千二百瓦

十一月十六日 尿ニ蛋白アリ、尙少數ノ膀胱細胞アリ

十一月十九日 吐乳一回

十一月二十二日 皮膚ノ蒼白益々著明

十一月二十七日 體重五千三百瓦

十一月二十九日 鼻端尖ル、腫瘍表面ニ軟化シタル部位ナシ

處置、「アルセニフェラトール」純乳一回量百cc一日三回、他ハ母乳

十二月一日 體温三十六度八分乃至三十八度三分

十二月三日 粥樣便、腫瘍ハ第八十七圖cノ如シ、前圖ヨリ膨大シ、特ニ二個ノ隆起セル部位ヲ認ム

十二月五日 吐乳一回

十二月十日 ゴーグエル氏法ニヨリテ血液中ノ血色素ヲ檢セシニ五十五%ニ減退、赤血球三千四百萬、白血球ノ增多ナシ、體重五千五百瓦、吐乳一回

十二月十二日 昨日及今日吐乳一回宛

十二月十三日 胸部左前下部ハ呼吸音微弱ニシテ左後下部ハ呼吸音銳利及少數ノ小水泡音ヲ聽ク、腫瘍ハ益々増大シテ唯左腸骨高ヲ除クノ外、殆ンド全腹腔ヲ占ム

十二月十五日 牛乳一回、脈數頓數、百四十乃至百六十

十二月十六日 吐乳一回

十二月十七日 腫瘍ハ益々硬ク而シテ稍々大ナル、凹凸ヲ認ム、體温三十七度乃至三十八度九分

十二月十八日 時々咳嗽ヲ發ス、胸部左側呼吸音一般ニ微弱、肩胛間部ニシテ呼吸音稍銳利水泡音ナシ

處置 吸入

十二月二十一日 皮膚及粘膜ノ蒼白増加、胸部一般ニ乾性水泡音ヲ聽ク

十二月二十三日 鼻形稍々尖銳ニシテ眼球陷沒、ヒルケ及モーロー氏皮膚反應陰性、胸ハ左前部約第三肋骨ヨリ下ハ呼吸音微弱、左胸側面モ亦同シ、體重五千瓦

肝臟疾患

十二月二十六日 兒ハ非常ニ衰弱セリ、體温三十七度一分乃至三十九度二分
 十二月二十九日 腫瘍ノ表面ニ於テ第八十七圖Dノ如ク二個ノ稍々軟ナル囊、腫瘍性ハ疑アル部位ヲ觸知セリ、腫起部ハ三ヶ所トナル、腫瘍ハ前圖ヨリ膨大、吐乳一回
 十二月三十日 猶ホ時々咳嗽ヲ發ス、機嫌惡シク、粥糲便
 十二月三十一日 嘔吐一回
 四十三年一月四日 腫瘍ノ腫起部ハ四ヶ所トナリ軟部モ前ヨリ稍大トナル、胸部所見ハ左前部呼吸音一般ニ弱、左後下部ニ有響性小水泡音僅少、體量四千七百瓦ニ減少
 一月十日 胸部左前下、短ニシテ鼓音ヲ呈ス呼吸音變化ナシ、左後下部ニ有響性小水泡音アリ摩擦音ノ如キ者ヲ混在ス
 一月十一日 腫瘍ノ軟部ハ其大サヲ増セリ、口唇蒼白、チアノーゼヲ呈シ、眼球陷沒、肩胛間部ニ於テ皮下溢血ヲ認ム
 一月十四日 呼吸數増加、五十二乃至六十
 一月十五日 體温三十六度七分乃至三十九度二分
 一月十七日 腫瘍ノ形狀第八十七圖Eノ如シ、呼吸數五十六乃至六十
 一月十九日 尿ハ淡黃色ニシテ弱酸性、蛋白陽性、圓柱ナシ、體温三十八度乃至三十九度、呼吸數六十四乃至六十八、脈數百六十六ニシテ弱シ
 一月二十日 呼吸困難、胸部ノ左前部ニ於テ多數ノ中水泡音、左肩胛間部ニ氣管支音アリ、左後下部ハ呼吸音弱、右後部ニ中水泡音アリ
 處置、實菱答利斯葉浸

一月二十一日 排尿困難著シク、體温三十七度五分乃至三十八度二分、脈搏數ニシテ弱、尿検査ヲ行ヒシニ蛋白陽性ニシテ少數ノ圓柱ヲ認ム
 一月二十二日 虚脱ノ狀著シ
 一月二十三日 午前九時死亡
 余輩ハ此惱メル兒ヲ愛護セルコト約五ヶ月間達ニ逝ケリ、而シテ解剖ノ結果トシテ極メテ稀有ナル珍物タルヲ識ルニ至レリ
 此兒ニ就テ生時ニ下セル診斷ヲ簡單ニ告白スル興味ナキニ非ルベシ
 初診則チ昨年八月二十七日ノ診斷ハ腹部ノ悪性腫瘍ニシテ副腎或ハ腎ヨリ發セルモノト想像セリ、此時腫瘍ニ肝臟痕ノ如キモノヲ見ズ又黃疸ナキヲ以テ毫モ肝臟腫瘍ト思ハザリキ、呼吸運動ニ連レテ其下緣轉移スルハ之レ肝臟ト腫瘍トノ間ニ癒著アリト思ヘリ、十月一日腫瘍ハ膨大スル而已ナラズ二段ニ分レ、而シテ其境界線ハ銳利ニシテ恰モ肝臟縁ノ如ク十二月三日尙膨大シ且肝臟表面ニ當ル部位ニ二個ノ隆起部ヲ生ジ、十二月二十九日益々膨大シ三個ノ結塊中ツノ二個ニ就キ囊腫様軟化ヲ發見シ、本年一月十七日ニ至リテハ腫瘍極メテ膨脹シ軟化部モ稍々大トナリ結節モ四個處ニ發生セリ、結節ノ大サハ何レモ約胡桃大ナリ、再ビ第十八圖HヨリEヲ参照セラレタシ、白色部ハ結節ニシテ黑色横線部ハ軟化部ナリ、白色部裡ニ黑色横線部ノ混在スルハ結節上ニ軟化部ヲ顯ハセル者ナリ、斯ク肝臟表面ニ結塊ヲ生ジ且囊腫ヲ呈スルノ狀況アルヲ以テ余輩ハ副腎若クハ腎ヨリ原發シテ肝臟ニ續發セル肉腫ニシテ囊腫ニ引田教授ノ報告セラレタル者ノ類例ナリト確信セリ、其他右肺ニ輕度ノ結核左肺ニハ顯著ノ結核症狀アルベキヲ豫期セリ

死亡ノ日午後一時病理學教室ニ於テ長與學士執刀ノ下ニ剖檢アリ
肉、眼、的、解、剖、診、斷、

肝臟ノ出血性肉腫肺臟左右兩側ノ乾酪樣氣管枝炎左側纖維性肋膜炎脾臟結核等

肝、臟、腫、瘍、ノ、顯、微、鏡、的、診、斷、

實質性肝腺性癌ニシテ輕度ノ軟骨及骨成生ヲ混合ス而シテ先天性發育障礙ニ基クモノト解
釋ス尙ホ肝臟ヲ主トシテ其關係アル諸臟器ニ就テ變化ノ概略ヲ舉ゲムニ余輩ノ所見ニ據レ

胸、腹、腔、ヲ、開、キ、腫、瘍、ヲ、露、出、セ、シ、メ、タ、ル、實、景、ハ、第、十、三、表、ノ、如、シ、殆、ン、ド、腹、腔、ノ、全、部、ヲ、占、有、ス、ル、一

大腫瘍アリテ當時其表面ニ現ハレタル形狀色彩ハ今マ此圖ニ描寫シ得テ眞ニ近シト云フモ

過言ニ非ルヲ信ズ數多ノ結節アリ磊塊アリ且青色ニ變ジタル軟化部分ニ富メリ而シテ余

輩ノ生時ニ於テ囊腫ト認メタル者ハ腫瘍ノ表面右上部ニ存セル二個ノ最大軟化部ナリト

ス腫瘍ノ血管ニ富メルコトハ圖ニ明カナリ斯ク病患ノ部位ヲ直接ニ視乍ラ猶腫瘍ハ腎臟ヨ

リ原發シ肝臟ニ轉移シテ形成セルモノ、則チ圖ノ上部ニ位セル肝臟ノ形狀ヲ呈セル者ハ實ニ

變化セル肝臟一段低ク下位ニ在ル者ハ眞ニ腫瘍ノ本體ニシテ豫期ノ誤マラザルヲ私カニ思

ヘリ、然レドモ臟器ヲ抽出シ之ヲ熱視スルニ及ンデ豈ニ圖ランヤ上下ノ兩部共ニ皆ナ肝臟ニ

シテ普通大ヨリ顯著ニ肥厚シ其全部ハ惡性腫瘍ニ變化シ而シテ此ノ如キ形狀ヲ呈セルヲ識

リ表面ノ軟化部モ刀ヲ加ヘテ囊腫ニ非ズ單ニ腫瘍ノ軟化セル者ナルヲ見ル尙ホ驚クベキハ

肝臟ノ後面ヲ翻スヤ右葉殊ニ下部ニ於テハ數多ノ大小不同ノ囊腫アリ其膽囊ニ相當スル部

表 三 十 第
(驗實家自) 癌 臟 肝 性 發 原

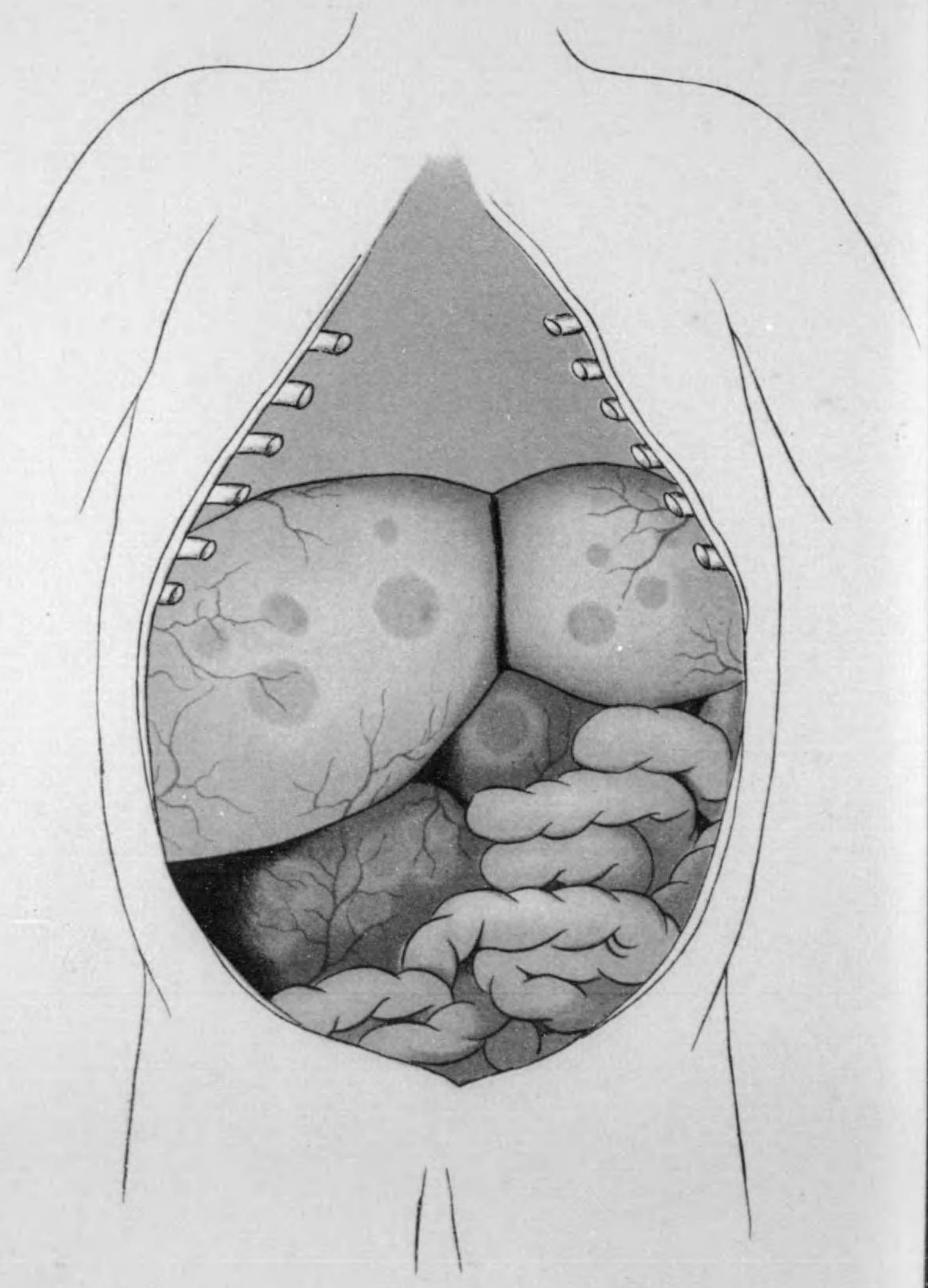


表 四 十 第



(大 然 自) 面 撕 頭 前

表 五 十 第



Zeiss : AA Ocul

位ニ腎卵大ノ軟ニシテ假性波動ヲ呈スル腫物アリ之ト相竝ビテ左葉ノ下面ニ葡萄色ニ變色セル密生ノ結塊ヨリ成ル林檎大ノ一腫物アリ之ヲ望ムニ宛モ葡萄ノ一ト房ニ似タリ囊腫ノ觀アルモ之ヲ剖截スレバ水分ヲ缺ケル小結塊ノ聚落ナリトス左葉ニモ腫物ノ小ナルモノ生ス

肝臟ノ剖面ハ第十四表ニ就テ見ラレヨ、實物ト同大ニシテ其形態彩色稍々當時ノ眞景ニ一致セリ、則チ實質ハ桃紅褐色ヲ呈シテ充血シ強キ黃疸色ヲ帶ビ右葉全面殆ンド腫瘍ヲ以テ滿タサル左葉ハ右葉ニ比スレバ其變化顯著ナラズ、腫瘍ハ汚穢暗褐色ヲ帶ビテ髓樣ニ變ジ軟ニシテ剖面ヨリ腫起ス而シテ概ネ脂肪變性壞疽及出血性ヲ現ハス間質ハ良ク發達ス、左葉ニハ退行變性末ダ著シカラズ比較的貧血ノ部分アレドモ肝小葉區劃ハ稍々不分明ナリ

肝臟ノ所見ハ已ニ之ヲ述ベタリ、他ノ關係アル諸臟器ニ就テハ如何
左右ノ副腎共ニ甚シク萎縮ス、左腎ハ其實質一般ニ黃疸色ヲ帶ブモ皮質ハ不然、右腎ハ其上部三分ノ二ハ腫瘍ニ壓セラレテ扁平狀ヲ爲セリ、剖面ノ景況左腎ニ等シ、脾臟ニハ數多ノ粟粒發

生アリ、腫瘍ハ肝臟ノミヲ犯シ他ノ臟器ニ轉移セズ
其顯微鏡的所見ハ第十五表ノ如シ、標本ハ「ヘマトキシリン」ト「エオジン」トノ重複染法ヲ施セルモノニシテ結締織ノ増殖、血管ノ擴張ヲ見、腺腫性癌ノ部分癌腫ニ變化セル部分比較的保存セラレタル肝組織ヲ見ルコトヲ得、概シテ實質性肝腺腫性癌ノ形狀ヲ明ラカニ示シ腫瘍細胞ト毛細血管トノ關係極メテ密ナル者アリ、則チ擴張セル毛細血管ヨリ成レル網アリテ其眼中ニ腫瘍細胞充實スルノ觀アリ、或標本ニテハ尙ホ軟骨及骨組織ヲ併セ示ス者モアリ、故ニ余輩ハ

所見ハ病理學教室ノ鑑定ニ符合スルコトヲ知ル
 原發性肝臟癌ノ診定下レリ茲ニ於テ乎本病ノ一般症狀ヲ見ルニ本病ハ初ニ當リ多少ノ消化
 障礙ヲ起スヲ常トス而シテ殆ンド全經過ニ涉リ吐乳下痢ノアルコト往々之アリ次デ母親ハ
 其兒ノ蒼白羸瘠肚腹膨滿ニ氣付キ醫治ヲ仰デ腹部ノ腫物ヲ發見セララルヲ順序トス實ニ腫
 瘍ハ本病ノ重要ナル症狀ニシテ肝臟自個ノ病的變化ニ因リテ膨大セルモノ而シテ之ハ肝臟
 ノ原形ヲ保有シ其截痕ヲ明示スルコトアリ腫瘍ハ日ヲ逐フテ急劇ニ膨脹シ其表面凹凸トナ
 リ結節語塊ヲ生ズルヲ特徴トス此腫瘍ノ膨大ニ連レテ呼吸短促ヲ起シ蒼白羸瘠ヲ増シ惡液
 質ニ陥ルコト太甚シ病ノ進ムヤ多ク浮腫腹水腹部靜脈怒張ヲ起ス熱無ク黃疸ヲ缺クヲ普通
 トス病ノ經過ハ迅速ニシテ數個月ヲ出デズシテ死亡ノ轉歸ヲ取ル者ナリ
 本病兒ハ大體是等ノ症狀ヲ具有スルコト前段ニ詳記セリ今マ贅言ヲ要セザルナリ而シテ此
 兒ニハ黃疸腹水浮腫ヲ缺キ腹部靜脈怒張ハ始メ之ヲ缺キ後ニ至リ輕度ニ之ヲ起セリ最初無
 熱ナリシモ十一月初旬ヨリ引キ續キ發熱シ最モ甚シク熱ノ弛張セルハ十一月中旬即チ末期
 前二週ヨリトナス之レ胸部ノ病變ヲ起セルニ由リテ然ラシムル所カ身體ハ漸次羸瘠ノ度ヲ
 進ムル間ニ反リテ十一月中體重ノ増加ハ矛盾セル如シ然レドモ此際ニハ腫瘍ノ増大著シカ
 リシヲ以テ體重ノ増加ハ腫瘍ノ重量ヲ加ヘシニ由ルナラム歟
 シュレエジングル氏ノ文獻搜索ヨリ得タル結論ノ若干項ヲ摘記セムニ
 (イ)原發性肝臟癌ニハ黃疸ヲ缺クヲ普通トス
 (ロ)結締織増殖ハ常ニ見ル

(ハ)原發性肝臟癌ノ成立ニハ肝腺腫密接ナル關係ヲ有ス
 (ニ)他臟器ヘノ轉移甚ダ稀ナリ
 是等ノ諸項ハ本例ニ之ヲ認ムルコトヲ得

ウエスト氏ノ爲セル八個月乳兒ニ就テノ肝臟癌記載及ウイデルホーフェル氏初生兒肝臟癌
 報告ハ普ク之ヲ承認セラレズ故ニ乳兒ノ原發性肝臟癌ハ極メテ稀有ナルハ不可拔ノ事實ナ
 リトス請フ第一表ヲ見ラレヨ

第一表

No.	Author	Jahr	Diagnose	geschlecht	Alter	Krantheits-Dauer	Metastasen
1.	Nöggerath	1851	Encephaloid-Krebs	♀	Neugebort.	?	—
2.	Pepper	1873	Hämatoïd-Cancer	—	8. W.	10 T.	—
3.	Miwa u. Utsumi	1909	Adeno-Carcinom	♀	9 M.	6 M.	—
4.	Plant	19. 6	"	♂	14 M.	2 M.	Portal-Driisen u. Lungen
5.	Affleck		—	—	17 M.	4 M.	Mesenterial-Driisen u. Lunge
6.	St. Joseph-Kinderspital	1883	Atypisches Leberadenom	♀	20 M.	3 M.	—

此表ハ二年以下ノ小兒ニ就キテ見タル五例ノ原發性肝臟癌報告ヲ網羅シタルモノニ本例ヲ
 肝臟疾患

挿入シテ六例トナス、内チ第四例以下ハ一年以上ノ兒ニ屬ス、第一例ヨリ第三例ハ一年以内ノ者トス、而シテ第一例ハシユレジンゲル氏ノ護謨腫タルヲ疑フ者ナリ、此表ニ依リテモ本病ハ女ニ多ク現レ、腫ト關係密ニシテ轉移スルコト比較的、罕有トス。

乳兒ニ本例ヲ發見セルコトハ腫瘍ヲ先天性畸形ト見做ス論少ナクトモ腫瘍發生ノ基礎ヲ胎生期ニ置ント欲スル説ニ有力ナル資料ヲ供スルニ足ル矣。

上記ノ如キ諸般ノ興味ヲ有スル珍例ナルヲ以テ敢テ之ヲ第十五回總會ニ發表シテ卑念ノ貫徹ヲ喜ブモノ也。

小兒ノ原發性實質性肝臟癌(齋藤學士ト共同)

日本小兒科學會第十五回總會ニ於テ乳兒ノ原發性肝臟癌ヲ報告出デシヨリ長澤氏ノ類症之ニ嗣ギ更ニ本例ヲ加ヘ我邦ニ於ケル小兒肝臟癌ノ記載ハ三例トナレリ、而シテ其病理學的研究ハ

第一例(三輪内海)明治四十三年四月發表

山極博士ニ由レバ骨組織等ノ混在ヲ以テス、先天性基礎ヲ有セル實質性腺腫——癌腫ナルヤ疑無カルベシ

第二例(長澤氏)明治四十四年一月發表

中村學士ニ由レバ本例ノ如キハ Cohnheim ノ腫瘍ノ發生ヲ先天性原基ノ上ニ求ムル學說ニ一例證ヲ與フルモノナルベキカ

第三例即チ本例

本田學士ニ由レバ本例腫瘍ノ發生ヲ先天性基礎ノ上ニ求ムルノ至當ナルヲ信ズルモ其先天性基礎ノ何物ナルカヲ明カニスルヲ得ザルナリ

斯ク三例共ニ腫瘍ノ發生ヲ胎生的基礎ノ上ニ求ムル學說ノ當然ナルヲ示スコトニ一致スル者ナリ

年一年這般ノ例證益々出レバ癌腫ノ老年ニ限リテ現ハレ小兒ニハ之ヲ見ズテフ一般ノ見解ハ多少制肘セラル、ノ傾向ヲ來タシ、隨ツテ吾人啞科醫タル者モ小兒癌ニ就テ其臨牀的判定ヲ謬マラザルコトニ留心スベキ秋來レリト謂フ可キ也、故ニ余輩ハ本例ヲ發表スルノ必要ヲ認メ而シテ之ニ應ズル者ナリトス

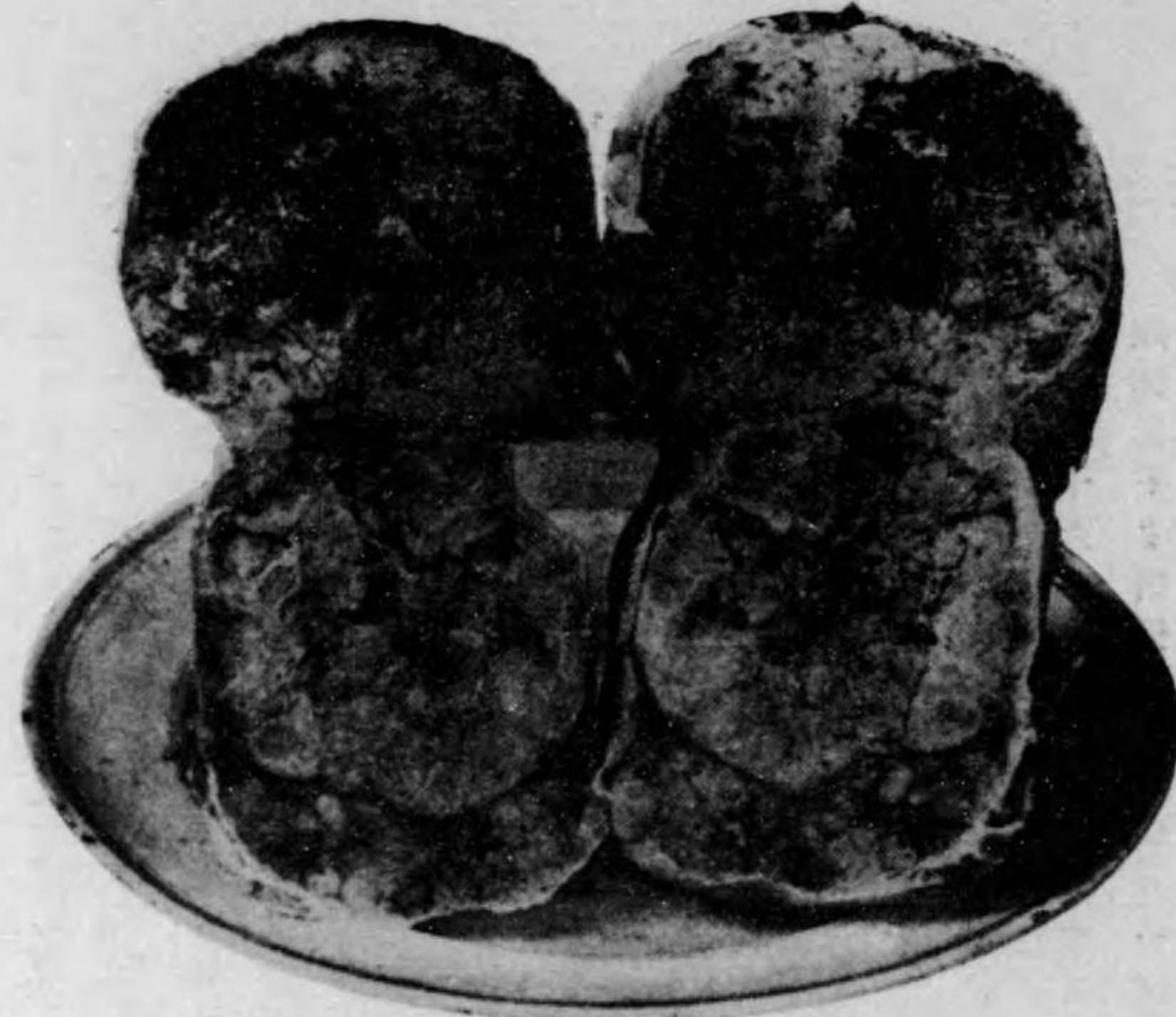
患兒 瀧澤某 本所區住 齡五年五ヶ月 女兒 明治四十四年三月二十五日入院

遺傳關係 母系ノ祖母ハ三年前乳腺腫瘍ノ爲メ三回ノ手術ヲ受ケシモ再發、齡五十二歳ニシテ死シ、母モ亦本兒分産後一ヶ月ニシテ腹膜炎ヲ病ミテ死亡セリト、其他遺傳ノ徵スベキナシ、一姉アリ九歳ニシテ健全

既往症 人工營養兒、毎年夏季胃腸病ヲ惱ミ、四歳ノ季ニ當リ百日咳ヲ經過セル而已

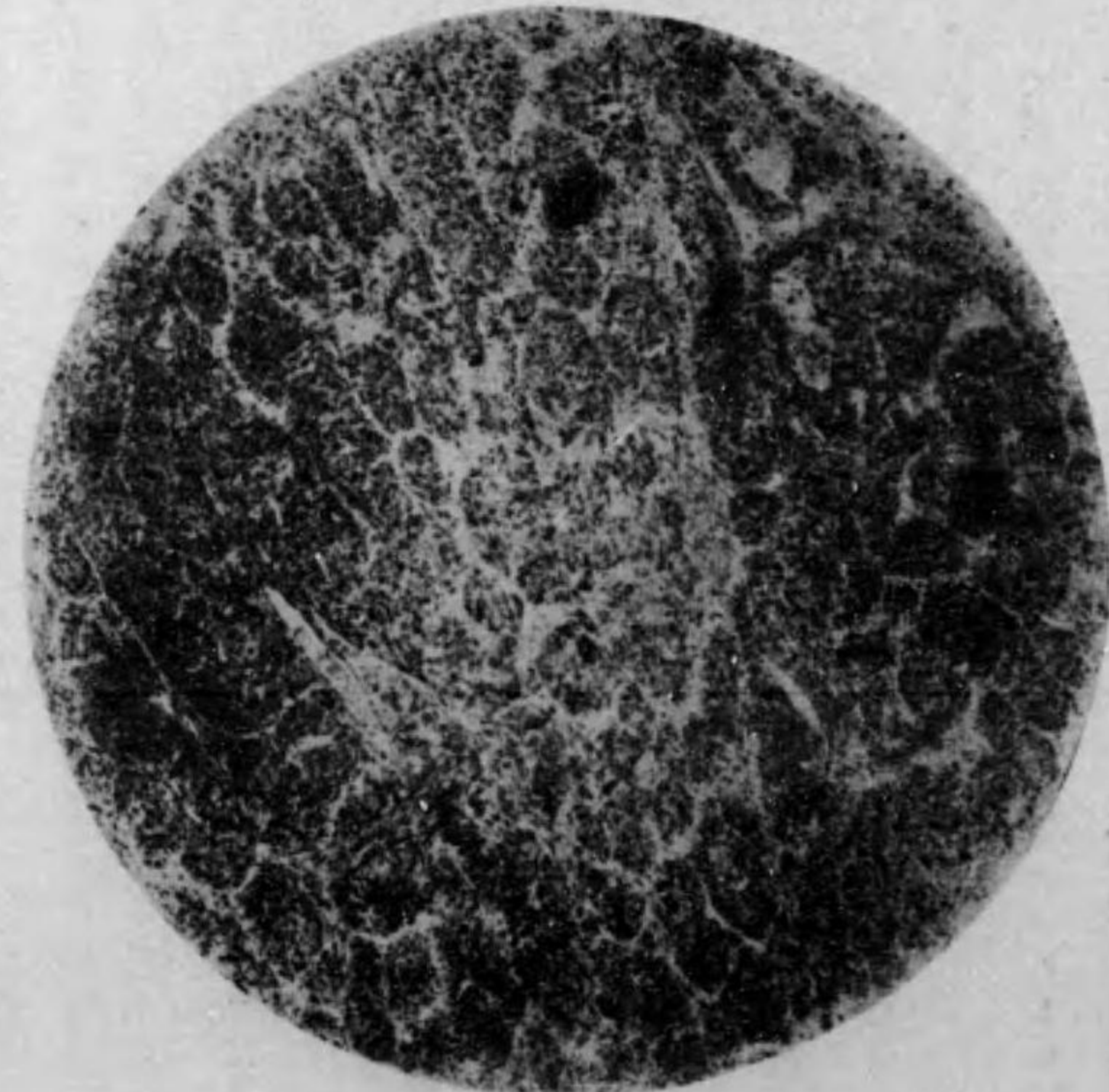
本病發生 明治四十四年二月二日以來毎食後輕微ノ腹痛アリ、但シ食慾便通平常、同月二十日ニ至リ晝食後數時間ニ亘ル痛痛ヲ訴ヘ而シテ就寝、夕刻下痢四回、翌二十一日初メテ醫ヲ訪ヒ胃腸病ノ診斷ヲ受ケタリ、此日午後一回再ビ痛痛發作アリシモ爾來三月一日ニ至ル迄ハ何等ノ自覺症ナク戶外遊戯ヲナシ其狀毫モ平時ニ異ナラザリシト云フ、三月七日夕約一時間半ニ亘ル痛痛發作現ハレ、翌八日家人初メテ本兒ノ胃部ニ當リテ腫物ヲ認メ、數日後更

圖 九 十 八 第



肝臟疾患

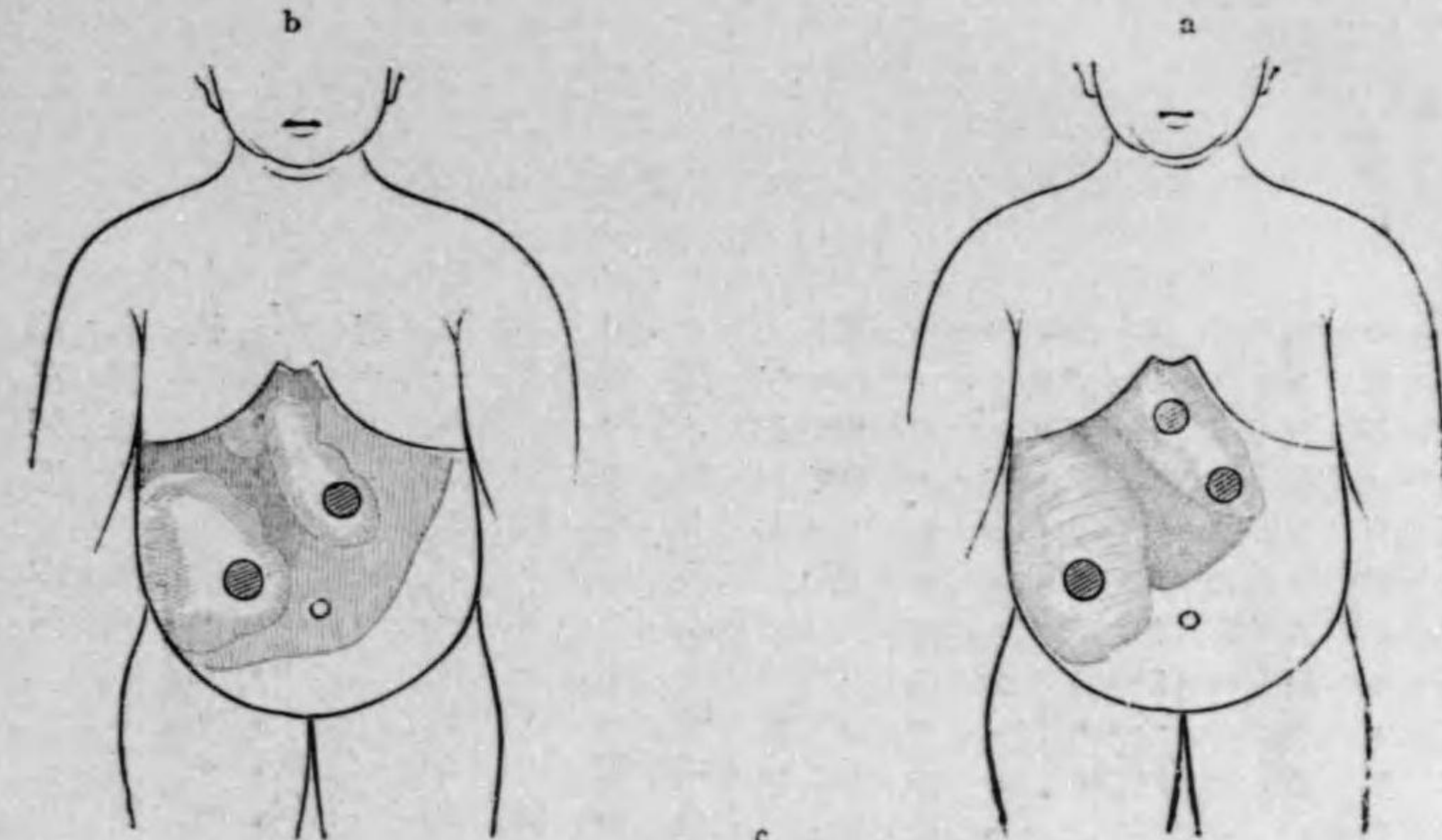
像真寫ノ面割瘍腫



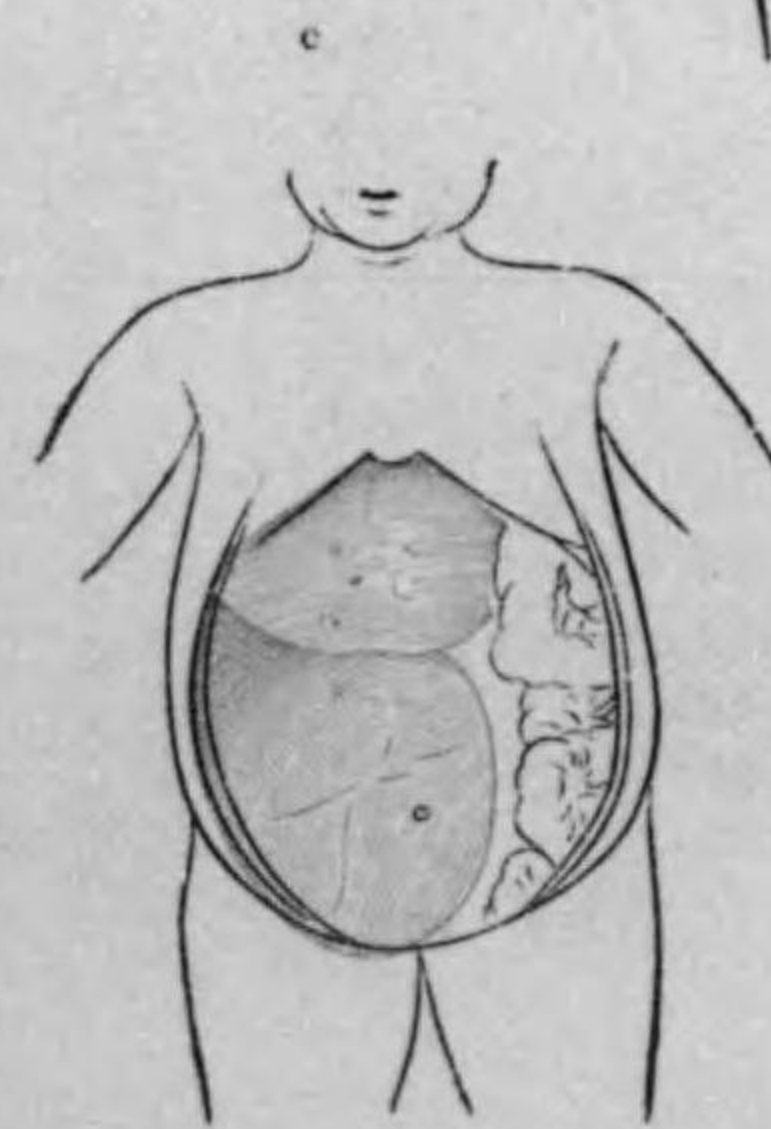
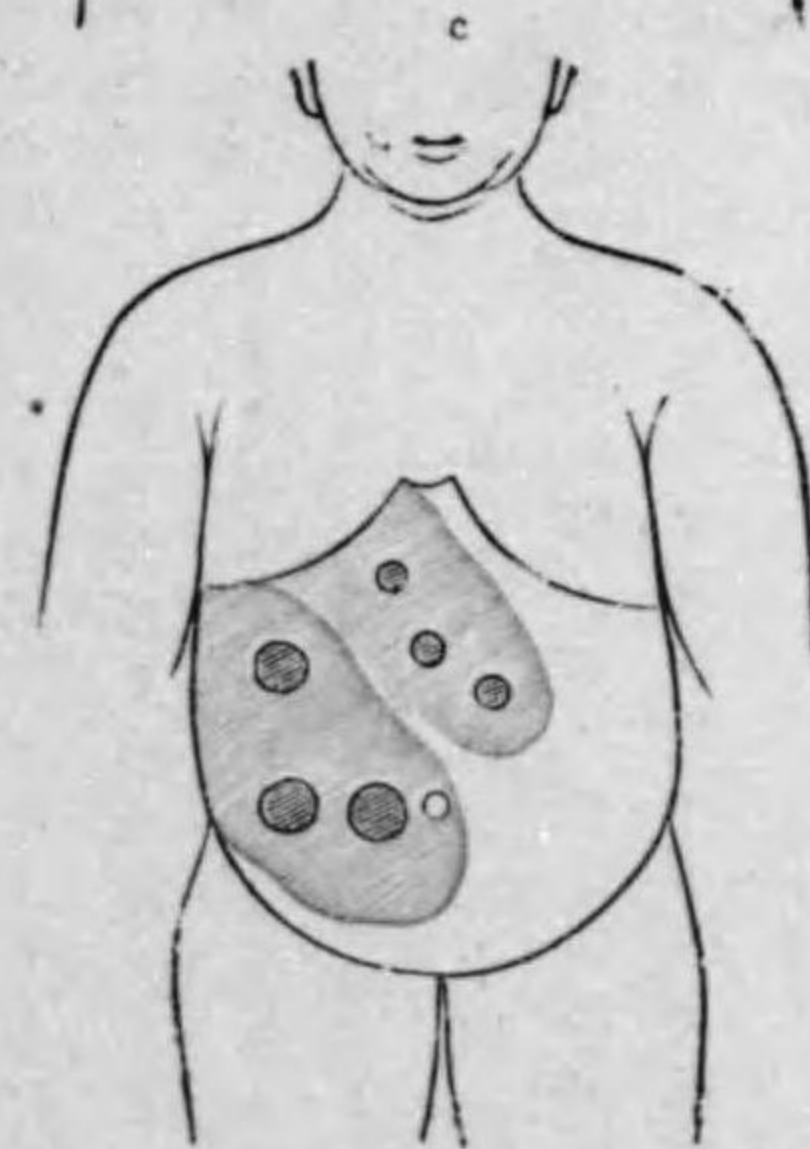
五五五

像真寫物質ノ下鏡微顯織組瘍腫

圖 八 十 八 第



肝臟疾患



五五四

ニ左腹部ニ於テ他ノ腫瘍ノ存在ヲ認メタリト、而シテ該腫瘍ハ逐日増大スルガ如キヲ以テ三月二十三日我小兒科外來診察ヲ訪ヘリ

外來診察所見 羸瘦顯著、黃疸、浮腫ナシ、腹部ハ膨滿シテ靜脈怒張、觸診スルニ腹腔内ニ二個ノ大ナル腫瘍ヲ觸ル、其面平滑ナラズ、其大ナルモノハ右腹部ニ位シテ下方ハ右腸骨高ニ達シ、稍小ナル他ノ腫物ハ助弓ノ下方正中線ニ相當シテ存在シ、二者ハ其境界相移行シテ一個ノ腫瘍ヲ形クルモノ、如ク、肝臟下縁ト覺ユルモノハ腹部ノ左側ニ之ヲ觸ル、腫瘍ハ其實硬、但シ下者ハ其中央部稍軟ナリ、尿ニ異常ナシ

外來診察 肝臟腫瘍

入院時ノ現症(三月二十五日)

意識鮮明、顔貌銷沈、呼吸促進、皮膚蒼白、羸瘦、體格中等、肺ニ異常ナシ、多數ノ鼻蹼腺米粒大ナルノ外、淋巴腺ノ腫脹ヲ見ズ、腹部甚シク膨滿、而シテ皮膚緊張ス、腫瘍ハ腹部ノ過半ヲ占領セリ、其狀況ハ外來診察所見ト大差ナシ、水腫、發疹及黃疸ナク、膝蓋腱反射稍亢進、脈搏細小、軟、一六〇、體溫三八・五呼吸八〇、患者ハ呻吟ス

尿ハ稍稠濁シ強酸性、比重一〇一・八、粘液多量、蛋白反應著明、膽色素、糖及インゲカレン反應陰性ナリ、鏡檢スルニ少量ノ白血球ト多量ノ粘液トヲ認ムルノミ

三月二十六日 小兒ハ常ニ仰臥位ヲ取り、呼吸促進、鼻翼運動アリ、顔面蒼白、チアノーゼ著明、腹部甚シク膨滿、膨隆ノ狀ハ一様ナラズシテ特ニ臍ヨリ上方ニ於テ著シク、精細ニ診スルニ腫瘍ハ二隆起ヨリ成ル(第八十八圖a)

一ハ劍狀突起部ヨリ胃部ニ亙リ其大サ小兒頭大、他ノ一ハ右腹ノ全般ヲ滿タシ下方ハ右腸

骨高ニ達ス大サ判者ト略ホ同大、二者連絡ス、而シテ其實硬シ、但シ三箇所ニ於テ多少波動ナリ、早スルガ如キ感アリ、腫瘍ノ縁ハ銳利ナラズ、高度ノ緊張ノ爲メ呼吸時ノ移動性顯著ナラズ、表面粗糙ニシテ許多ノ小結節ヨリナルガ如ク濁音ヲ呈ス、爾餘ノ部分ハ鼓音ヲ呈ス、腹水ノ存在ヲ認メズ

食慾不長、少量ノ牛乳ヲ攝取スルノミ、入院來嘔吐二回、夕ニ約五十五ノ褐色水様物ヲ吐出ス、其性狀次ノ如シ

弱酸性、血液及ビ膽色素反應著明、蛋白質約〇・〇〇三%、乳酸反應(ワツフェエルマン氏)著明、遊離鹽酸ナシ

嘔吐後、患者ノ一般狀態著シク佳良トナリ、腹痛止ミ食慾良好トナレリ、有形便ヲ出ス

同月二十七日 腹部ハ稍緊張ヲ減シ爲ニ腫瘍更ニ顯著トナリ、肝臟ノ遊離縁ヲ觸レ而カモ呼吸ニヨリテ著シク移動ス(第八十八圖b)

四月六日 二箇ノ隆起ハ各二箇所ニ於テ著明ノ波動ヲ呈スルニ至リ、腹外皮ハ其光澤ヲ増セリ、食機佳良、牛乳ノ外ニ菓子、粥ヲ食ス、呼吸五〇脈搏一三〇體溫三七・五ニ減セリ、然レドモ腹部腫瘍ハ逐日増大シ、衰弱日ニ加ハレリ、尿ノ所見同上

同月十日 兩三日來輕度ノ咳嗽アリ、呼吸時喘鳴ヲ聞ク、是レ橫隔膜上方ニ壓迫セララル、ニ由リテナルカ、前胸兩側共ニ第四肋間以下呼吸音著シク減弱セリ、右肺ノ下部ハ第八胸椎位ニシテ左肺ノ下界ハ第十胸椎位ニ當レリ、胸部到ル所乾性、ラツセル、チ聞キ尙ホ右背下部ニ於テハ多數ノ中等水泡音ヲ聞ク

臍ノ高サニ於テノ腹圍ハ仰臥位ニテ約五五仙迷ヲ算ス、腫瘍ハ其大サヲ増スニ隨ヒ表面所

々隆起シ多クハ波動ヲ呈シ、全腫物ハ呼吸時顯著ナル移動性ヲ示ス(第八十八圖c)。
 同月十四日 初メテ尿ニ少數ノ硝子樣圓柱ヲ認ム。
 同月十八日 腹皮ハ一般ニ著シク光澤ヲ増シ宛モ油ヲ瀧ゲルガ如キ觀ヲ呈シ、腫瘍亦著シク膨大セリ(第八十八圖d)。尿ノ所見同前、二三日來再ビ食機減退、僅少ノ牛乳ヲ取ルノミトナレリ。

四月十九日 衰弱狀態増惡シ午前八時死亡セリ、入院後第二十六日ニシテ家人ガ始メテ腫瘍ヲ認メテヨリ約五十日目トス。

同日午前十時三十分病理學教室ニ於テ解剖
 病理解剖記事摘要

腹腔ニハ少量ノ漿液性血性ニ血性ノ水溶液存在シ、橫隔膜ハ腫瘍ノ爲メ上方ニ壓迫セラレ其高サ右第三、左第四肋間部ニ位セリ、胃及腸管ハ腫瘍ノ爲メ左方ニ壓セラレ、而シテ腹腔ノ大部ヲ占ムルモノハ腫瘍ニシテ全體ハ二個ノ大ナル球狀隆起物ヨリ成リ相互ニ連結セリ(第八十八圖c)、之ヲ摘出スルニ全ク肝臟ニ一致シ、腫瘍ハ主トシテ肝ノ右葉ヨリ發セルガ如ク其重量二七九五瓦、表面凹凸、各結節ハ所々軟化シテ偽波動ヲ呈セリ、腫瘍ノ剖面ハ悉ク胞巢狀構造ヲ呈シ(第八十九圖)一般ニ黃褐色ヲ呈シ所々ニ出血部ヲ認ム、肝臟ノ右葉ハ悉ク腫瘍ニ變ズ之ニ反シテ左葉ハ貧血シ分葉狀不明ナルノミ轉移癌ヲ認メズ、但シ所々ニ楔狀出血ヲ見ル

解剖的診斷

一、原發性實質肝臟癌

- 二、下行大靜脈幹ノ腫瘍性血栓
- 三、右肺中葉部ニ於ケル腫瘍ノ轉移
- 四、輸尿管、右腎臟等ノ壓迫
- 五、左肺動脈内腫瘍血栓
- 六、肝臟左葉ノ出血性楔栓
- 七、脾臟ノ濾胞肥大
- 八、脾臟ノ浮腫
- 九、輕度ノ腹水
- 十、右肺下葉ノ壓迫性萎縮
- 十一、貧血

三例對照ノ結果次ノ如シ

剖檢的知見

(第一例)肝臟ノ右葉ハ殆ンド腫瘍ヲ以テ充タサル左葉ハ其變化顯著ナラズ、結締織増殖、骨及軟骨組織ノ混在アリ、轉移無シ

(第二例)肝臟ハ左右ニ通ジテ腫瘍ノ占ムル所トナル、結締織増殖ヲ呈セル所アリ、尙所々骨樣ヲ呈セル小體ヲ伴ヘルモノアリ、轉移癌ハ唯ダ小ナル結節トシテ兩側肺臟ニ認メシノミ

(第三例)左葉ハ全ク犯サレザルニ反シ右葉ハ殆ンド腫瘍ノ爲メ占領セラレ、結締織増殖アリ、骨生成等ヲ缺ク、右肺中葉ニ豌豆大ノ轉移癌等アリ

則チ主トシテ犯サレタルハ肝臟ノ右葉、結締織増殖ハ常ニ存在、第一例ハ骨及軟骨生成アリ、第

二例ハ殆ンド之ヲ缺ク如ク、第三例ハ全ク之ヲ缺ク、轉移ハ第二及ビ三例ニ之ヲ見、第一例ハ全ク之ヲ缺ク

臨牀的知見

(第一例)九ヶ月ノ女兒、黃疸ナシ、膽色素陰性、蛋白陽性ニシテ少許ノ圓柱アリ、淋巴腺腫脹殆ン下無シ

(第二例)一年五ヶ月ノ女兒、黃疸ナシ、蛋白及膽汁反應陰性、淋巴腺腫脹無シ

(第三例)五年五ヶ月ノ女兒、黃疸ナシ、尿ニハ膽色素反應無シ、蛋白ハ陽性ニシテ硝子樣圓柱ノ少数アリ、淋巴腺腫脹ヲ缺ク

則チ一致セル點ハ、女兒ナルコト、黃疸ヲ缺クコト、淋巴腺腫脹無キコト、ニアリ、尿反應ハ第一及第三例ニハ蛋白及圓柱アリ

上陳三例ヲ知り得、且ツ學ビ得ルニ至リテ、コソ小兒癌ノ臨牀上診斷ハ稍々闡明ノ域ニ達シタルナレ、請フ其所以ヲ説カム

余輩ハ本例ノ臨牀的診斷ヲ腹部ノ腫瘍(肝臟腫瘍?)ニ止メテ甘ンジタリ、是レ勿論腫瘍ノ所在ハ肝臟部ニ適當シ、其惡性腫瘍ナルヲ識リ、且肝癌ハ黃疸及淋巴腺腫脹ヲ缺クコトヲ知ル、故ニ肝癌ノ疑ヲ抱キシモ僅カ一ノフアル經驗ニ基ク皮相的診斷ハ謬リ易キヲ慮リ、其診定ヲ敢テ爲サバ、リキ然レドモ茲ニ親ラ第二回ノ剖見ニ接シ、且長澤氏例ヲモ知りテハ向後ハ余輩小兒癌ハ稍々確乎タル想像診定ヲ描キ得ベキヲ思惟ス、全ク先進學者ノ所説ニ符合ス、則チ乳兒若クハ小兒ノ肝臟部位ニ當リテ肝臟ニ類似スル形狀ノ腫瘍ヲ發見シ、其表面ニハ結節或ハ磊塊

ノ如キ物アリテ凹凸不平、其實ハ硬ク呼吸時ニ移動ヲ爲シ、而シテ迅速ニ膨大シ、隆起部ニ往々假性波動ヲ呈シ、遂ニ惡液質ニ陥リ鬼籍ニ上ル者ハ先ヅ肝臟癌ニ指テ屈スベシ(副腎及腎肉腫性腫瘍ニテ脾臟部邊ニ脾ニ似タル形ヲ以テ露出シ來ルコトアリ、而シテ其經驗少キトキハ多クハ脾腫ト誤ルコトアルガ如キト趣ヲ異ニスト知ルベシ)、此際ニ肝臟癌ト診定ヲ下シ剖見モ亦之ヲ證明スルニ至ルモ是レ余輩ノ所謂稍々確乎タル想像診定ヲ描キ得タリト云フニ過ギズ、實ニ正眞ナル診斷ハ病理學的剖見且鏡檢ヲ俟チテ定マルモノナリ、剖見而已ニテモ診定シ得ザルコトハ第一例ノ一見出血性肉腫トノ診斷ヲ附セラレタルニ徴シテ之ヲ知ルベシ、矧ンヤ單ニ外表ヨリシテノ觀察ヲヤ(完)

小兒科學 上卷終

小兒科學 上卷索引

1(井)

頁	索引	頁	索引	頁	索引
七	癩乳	四六	母乳營養ノ方法	五二	
七	ハイム、ジョン氏鹽液	二一五	母乳兒胸門狹窄	四四九	
四五六	バク牛乳	六六	保温裝置	二二〇	
九	發育論	一七	ゾオルトメル氏母乳	六七	
七	醱酵素	三六	「ヘルニア」	四九八	
九	バツクハウス牛乳	六七	「ベスト」又黒死病	四〇二	
一〇八	「バラチフス」	三七二	平衡失調症	一七四	
五二	ハノー氏肝硬化症	一五	便秘	五〇八	
五三六	バビンスキ氏現象	一五	ベドナル氏阿布答	四二五	
二四五	反射機能	一〇	吐乳	二二七	
九二	乳糖尿	五八	頭圍	二四	
四五四	乳母ノ選擇	二七	糖熱	六八	
八三	乳齒	二四二	痘瘡	三一八	
三九三	乳兒脚氣	四八	チ		
二二七	乳嚙裂傷	四八、一六三	ヂューク、フライトウ氏病	三三三	
五一一	乳腺炎	二七六	「デアッオ」反應	三六九	
ハ		二七六	蟲様突起炎	四九八	
一〇六	ホイブチル氏淋巴質	五四	蟲様突起炎性腹膜炎	五一七	
八六	哺乳量	五四	腸管扶斯	三六一	
一二七	哺乳器	五四	腸加答兒	五一〇	
五一七	哺乳ノ時間				

索引

腸管腫瘍	四七六	加答兒性口腔炎	四二三	脫脂乳	六六
直腸脫肛	四八五	假死	二二四	蛋白質	二三八
直腸内點滴法	一〇五	假性「メレーナ」	二二八	丹毒	三三三
地圖舌	八二、二五二	肛門裂傷	四二六	膽道疾患	四〇〇
腸内ニ於ケル消化作用	九	咳嗽	四八五	膽色素試驗	五三八
腸内細菌集團	一	肝硬化症	八	多形熱型	五三〇
腸管腫瘍	四八六	肝臟腫瘍	五三六	單純性定量的饑餓	六
腸管積	四七六	肝臟脂肪變性	五三四	單純熱型	二一九
腸管扶斯菌攜帶者	三六二	肝臟疾患	五二九	レエンネツク氏肝硬化症	五三六
腸喘息	五一六	肝臟腫瘍	五三九	レフンドル氏「ベブント」化乳	六八
腸洗滌	一〇六	肝臟重量	四三	連鎖狀菌性腹膜炎	五二〇
リンゲル氏溶液	一〇五	顔貌	八一	粟粒猩紅熱	二八一
離乳	五九	顔面神經麻痺	一四三	頭痛	一三六
利乳劑	五〇	含水炭素	三三、六八	頭内血腫	一三九
流行性感胃	三九三	羊膜臍	一四四	頭血腫	一三七
流行性耳下腺炎	三九八	大腸加答兒	五一二	子	一四
流行性腦脊髄膜炎	四〇八	體表面積	四二	尿酸梗塞	一四
麻菌性腹膜炎	五二一	體重	一九	尿	八七
ヲ(オ)	四〇	體温	六	尿ノ性状	一四
オルレンドルフ氏低温殺菌器	五三二	大腸門	二七	尿回数	一三
ワイル氏病	五三二	胎便	一一	尿酸梗塞	一四
加答兒性黃疸	五二九	胎生尿管瘻	一四七		

粘液痛

血液	五一六	血清注射法	三五四	エンゲル、ツルノウ氏尿反應	一四
腦出血	一四〇	血清病	三五五	壞疽性口腔炎	四一九
無疹性猩紅熱	二八四	原發性肝臟癌	五三九	永久乳	三〇
ウインケル氏病	一五九	原發性實質性肝臟癌	五五〇	榮養不給	二二六
ウイゲル氏血清反應	三六九	ブル氏病	一五九	榮養障礙	一六六
嗜血性肝硬化症	五三七	風疹	三〇八	疫咳	三八五
膿毒性口腔炎	四二四	覆盆子舌	二九〇	疫病	三七八
鰓風病	三七八	腹膜炎患	五一七	鹽熱	六八
化學的生成	一	腹膜腫瘍	五二九	圓形胃潰瘍	四五八
化膿性腹膜炎	五一七	腹部ノ検査	八七	腰椎穿刺法	八九
マルシアン氏法	三四	腹性顔貌	四八七	テ	一一一
麻乳	五	分娩時外傷	一三五	啼泣	八一
麻拉利亞、間歇熱	四〇六	糞便	一〇	天然榮養法	四四
麻疹	二九四	コブリック氏斑	二九七	傳染性紅斑	五三二
慢性關節癱瘓質新	四一八	コンデンスミルク	六五	傳染性紅斑	五三一
ケ		呼吸興奮法	一〇三	澱粉様肝	五三五
ケルベル氏法	三五	呼吸器系統	四	ア	四二四
結核性腹膜炎	五二三	骨外傷	一三五	亞布答性口腔炎	三八一
結膜實扶の里	三四八	口腔	六	亞細亞虎列刺	一三五
		口腔實扶の里	三三七	壓迫印象	一三五
		穀粉榮養障礙	二二一	サ	一四七
		混合榮養法	七二	臍腸管膜管ノ遺存	一四五
				臍帶「ヘルニヤ」	一四五

臍帶壞死	一四八	牛乳ノ量	六四	初生兒蛋白尿	一六四
臍息肉	一五〇	牛乳検査法	三七	初生兒丹毒	一六〇
臍壞疽	一四八	牛乳稀釋法	六一	初生兒尿酸梗塞	一六四
臍膿漏	一四九	牛乳煮沸ノ注意	三八	初生兒黃疸	五、一三〇
臍血管炎	一五〇	牛乳製品	六五	初生兒化膿性腹膜炎	五一七
臍部潰瘍	一四九	急性關節痠痛麻質斯	四一三	初生兒紅斑	一三三
臍部傳染性疾患	一四七	急性黃色肝萎縮	五三四	初生兒鞏膜病	一三三
臍部疾患	一四四	急性傳染病	二七八	初生兒急性膿漏眼	一六一
臍出血	一五五	急性消化不良症	二二二	初生兒「メレーナ」	一五二
早産兒	一三八	癒着性結核性腹膜炎	五三三	初生兒「テタヌス」(破傷風)	一五二
挿管法	三三七	脈搏	二二五	消化不良症	一一八、一八三
產痛	一〇三	メーリー氏野菜ソップ	二	消化不良症昏睡	一一三
酸素吸入法	三五七	脂肪	一七六	消化器系統	六
氣管切開術	一〇〇	脂肪石鹼便	一七六	消耗症	一九四
義膜様腸炎	二四	脂肪的里	一七八	消耗症ニ於ケル十二指腸潰瘍	一九七
虛脱ノ療法	一四一	實扶的里	三三七	猩紅熱	二七八
胸圍	二六六	實扶的里ノ口蓋筋痲痺	三四九	猩紅熱腎臟炎	二八七
胸鎖乳頭筋血腫	二七一	上膊神經痲痺	一四一	猩紅熱性安魏那	二八〇
胸腺淋巴性體質	二七一	初乳	二八	猩紅熱性實扶的里樣症	二八五
胸腺死	二七一	初生兒敗血症	一五六	食道嚕口瘡	四三五
胸腺喘息	六六	初生兒乳腺ノ腫脹	一六三	食道腐蝕	四三三
牛酪乳	三八			食餌性中毒症	二〇五
牛乳	三八			種痘	三三一
牛乳貯藏法	三八			種痘法	三二八
				種痘法施行規則	三三二

種痘術心得	三三五	皮膚氣腫	八〇	赤痢	三七五
受尿器	八七	皮膚緊張狀態	七九	舌繫帶ノ潰瘍	三九〇
授乳ノ度數	五三、六五	皮膚瘙癢	八一	先天性腸管閉塞	四四九
授産婦ノ攝生	四九	皮膚實扶的里	一四四	先天性膽道閉塞	五三八
人乳榮養法	四四	糜爛性口腔炎	三四八	先天性膽道閉塞ニヨル肝硬血症	五三八
人乳榮養兒ノ消化不良症	二二八	鼻加答兒	四二七	先天性巨大結腸	四六〇
人工榮養	六一	鼻腔實扶的里	四四	先天性食道閉鎖	四三二
身長	一七	百日咳	三四四	先天性食道憩室	四三三
神經痲痺	一四一	百日咳ノ出血	三八五	先天性食道狹窄	四三二
神經系統	一四	ヒルシユスブルグ氏病	三八九		
神經性嘔吐	四五六	ビュゲン氏吸引器	四六〇	水痘	三一四
神經性食慾缺損	四五六	モロー氏ノ胡蘿蔔「ソップ」	五二	水痘	三一四
神經痛風質或ハ痛風質	二五八	モンチー氏法	二一五	水分脱却ニ對スル療法	四一九
漆出質	二五二	生齒	六八	睡眠	一〇四
漆出性結核性腹膜炎	一三	生齒發熱	二七		一六
腎臟	八五	生齒困難	二八、四三一		
心臟	八五	生理的體重減少	二八		
ヒーデルト氏乳脂混和汁	六七	精神作用	一六		
肥厚性幽門狹窄	四四九	小腸加答兒	五一〇		
肥大性肝硬血症	五三七	小腸赤痢	三七八		
皮膚	五、七七	小兒呼吸音	五		
皮膚發赤	七七	小兒虎列拉	二〇五		
皮膚發疹	八〇				
皮膚剝脫	七九				

大正二年一月六日印刷
大正二年一月十日發行

正價金參圓八拾錢

著者 三輪信太郎



發行者 鈴木幹太

東京市本郷區龍岡町三十四番地

印刷者 矢部政吉

東京市本郷區湯島切通坂町五十一番地

印刷所 右同所 正文舍



發兌元

東京市本郷區龍岡町三十四番地(電話下
谷四一七八番振替口座東京六三三八番)

南山堂書店



肆書捌賣

本郷區湯島切通坂町 南江堂書店
 日本橋區通リ三丁目 丸善書店
 本郷區春木町二丁目 半田屋書店
 同 春木町三丁目 南江堂支店
 同 龍岡町 吐鳳堂書店
 同 湯島切通坂町 金原書店
 神田區鍛冶町 朝香屋書店
 本郷區元富士町 明文館書店
 同 文光堂書店
 同 豐文堂書店
 同 朝陽堂書店
 同 龍岡町 根津書店
 同 文榮堂書店
 同 湯島切通坂町 宮澤書店
 同 富倉書店
 神田區表神保町 東京堂書店

大阪市中心齋橋筋一丁目松村九兵衛
 同 博勞町 丸善書店
 同 中之島玉江町 角屋書店
 名古屋市中區榮町 丸善書店
 京都市三條通 南江堂京都出張所
 同 寺町通 若林茂一郎
 同 三條通 丸善支店
 同 河原町通 大黒屋書店
 長崎市引地町 集榮堂書店
 熊本市新二丁目 長崎次郎
 熊本市洗馬町 芹川書店
 鹿兒島市仲町 谷村書店
 岡山市中ノ町 渡邊書店
 福岡市博多 積善館書店
 金澤市片町 宇都宮書店
 仙臺市新傳馬町 金英堂書店
 新潟市古町通 萬松堂支店
 同 北光社書店

Z 12010

SACHREGISTER

A		Seite
Abdomen		87
Abführmittel		107
Abkochen der Milch		40
Abstillen		46
Acute Infektionskrankheiten		278
— Leberatrophie		534
Adstringierende Mittel		109
Agglutination bei Ileotyphus		369
Albuminurie der Neugeborenen		164
Alimentäre Intoxication		205
Allaitement mixte		72
Allgemeine Krankheitszeichen		74
— Prophylaxe		92
— Therapie		97
Ammenwahl		58
Amnionnabel		141
Amyloidleber		535
Analeptica		100
Anaphylaxie		355
Angeborene Atresie		432
— Stenose		432
— Divertikel		433
Angina Vincenti		351
Antitoxineinheit		353
Aphthen		424
Appendicitis		498
Arteriitis umbilicalis		150
Asphyxie		124
—, angeborene		125
—, erworbene		127
Atmung, toxische bei alimentärer Intoxication		252
B		
Atresia ani		460
Babinskisches Phänomen		15
Bazillenträger bei Typhus		362
Backhausmilch		67
Bauch		87
Bednarsche Aphthen		425
Biedert's Rahmgemenge		67
Bilanzsörung		174
Blenorrhoea umbilica		149
Blut		3
Blutungen bei Keuchhusten		389
Brustdrüenschwellung der Neuge- borenen		163
Brusternährung, Technik		51
Brustumfang		24
Buhl'sche Krankheit		159
Buttermilch		66
C		
Caput succedaneum		136
Cephalhaematoma externum		137
— internum		139
Chemische Zusammensetzung		1
Cholera asiatica		381
— infantum		205
Colica mucosa		516
Colitis		512
Collaps, Therapie		100
Condensierte Milch		65
Conjunctivitis blennorrhoeica acuta neonatorum		161

Conjunctivitis diphtherica	Seite 348
Coryza	48
Couveus	100
Darm	9

D

Darmflora	11
Darmkatarrh	510
Darmspülung	106
Darmverschluss, angeborener	459
Dauermilch	30
Dekomposition	194
Dentitio difficilis	28, 341
Dentition	27
Diathese	245
—, exsudative	251
Diazoreaction bei Ileotyphus	369
Digestionsapparat	6
Dilatatio ventriculi	458
Diphtherie	337
—, der Nase	344
Druckmarke	135
Dukes-Filatowsche Krankheit	313
Dünndarmkatarrh	510
Duodenalgeschwüre bei der Dekomposition	197
Dysenterie, Ruhr	375
Dyspepsie (Stadium dyspepticum)	183
—, acute	232
—, chronische	234
— durch endogene Schädigung	230
— durch exogene Schädigung	228
— durch Muttermilch	228

E

Eiweiss	33
Eiweissmilch	238
Enteritis follicularis	515

— membranacea	Seite 516
Entwöhnung	59
Erbrechen	227
Ernährung des Kindes	41
— an der Brust	44
—, künstliche	61

Ernährungsstörungen der Brustkinder	225
— der Flaschenkinder	166
— der Säuglinge	166
— infolge Nährstoffmangels	219
— infolge Toleranzüberschreitung	172
Ernährungszustand	76
Erstlingsmilch	28
Erysipel	400
Erysipelas neonatorum	160
Erythema infectiosum	311
— neonatorum	132

F

Facialislähmung	143
Fermente der Milch	36
Fett	34
Fettige Degeneration der Leber	534
Fettseifenstuhl	178
Fissura ani	485
Frühgeburt	118
Fungus umbilici	150

G

Gallenfarbstoff, Nachweis im Harn	530
Gangrän des Strangrestes	148
Gärtner'sche Fettmilch	67
Gaumensegellähmung bei der Diphtherie	349
Geburtsgeschwulst	136
Geburtsstraumen	135
Gelenkrheumatismus, acuter	413
—, chronischer	418

Gesichtsausdruck	Seite 81
Geschrei	81
Gonokokkenperitonitis	521
Granuloma umbilici	150
Grosse Fontanelle	27

H

Haematom d. Sternocleidomastoideus	141
Haptine der Milch	38
Harn	87
Harnsäureinfarkt des Neugeborenen	164
Haut	5, 77
Hautnabel	144
Heim-Johnsche Lösung	215
Hernia inguinalis	497
— funiculi umbilicalis	145
— umbilicalis	498
Herz	85
Hexenmilch	5
Himbeerzunge	290
Hirnblutung	140
Hirschsprungische Krankheit	460
Husten	81
Hygiene der Stillenden	49

I

Idiosynkrasie gegen Brustmilch	231
— gegen Kuhmilch	231
Icterus catarrhalis	529
— neonatorum	130
—, infectiöse	532
Impfgesetz, japanisches	328
Inanition	226
—, einfache quantitative	219
—, qualitative	221
Influenza, Grippe	393
Infusio, subcutane	104
Instillation, rektale	105
Intubation	357

Intussuszeption	Seite 476
Invagination	476

K

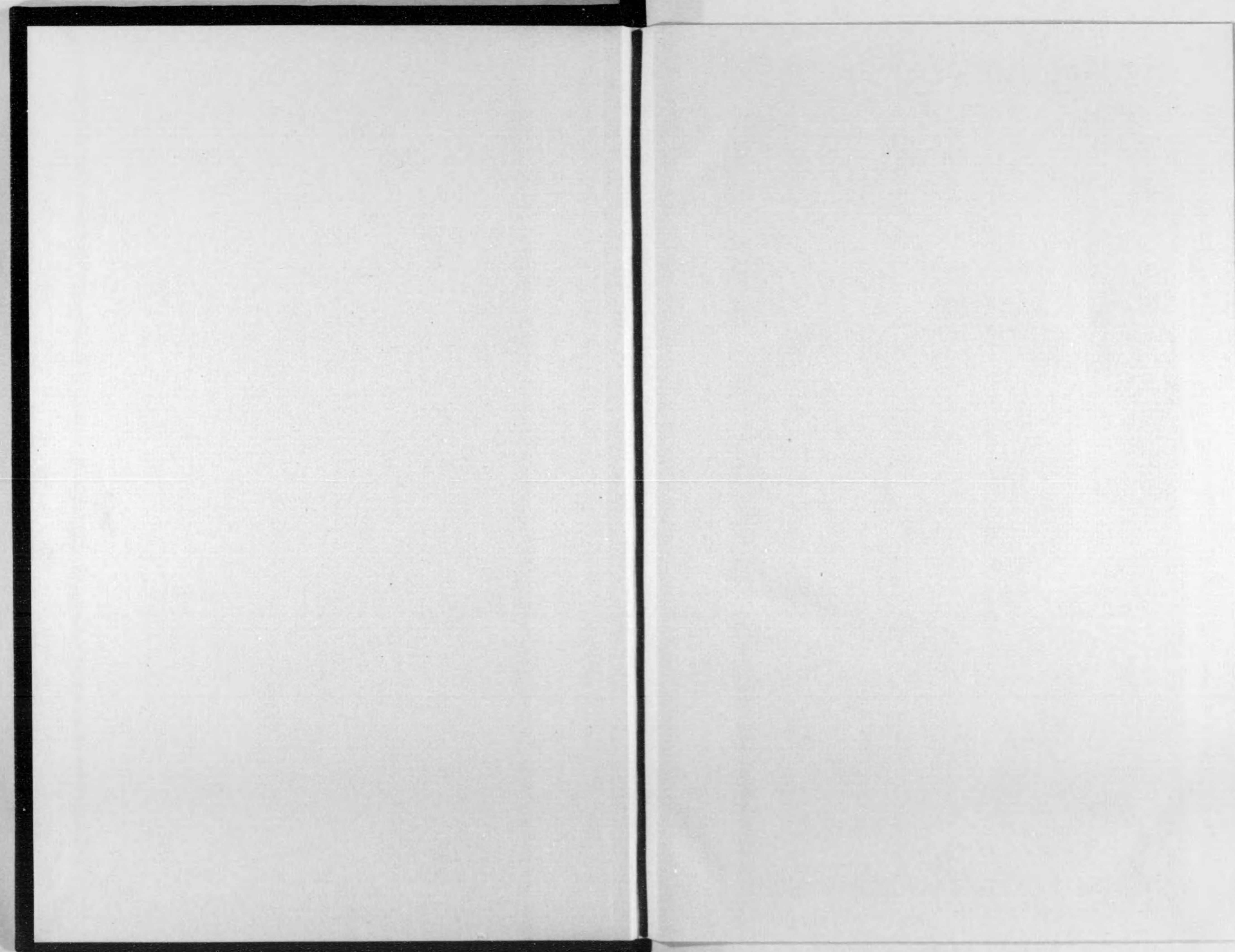
Kellersche Suppe	182
Keuchhusten	385
Kindspech	11
Knochenverletzung, Geburtstraumen	135
Knorr'sche Hafermehl	71
Kohlenhydrat, als Milchzusatz	68
Kolostrum,	28
Kolostrumkörperchen	29
Kopfumfang	24
Kopfgeschwulst	136
Koplik'sche Flecke	297
Körpergewicht	19
Körperlänge	17
Körpertemperatur	6
Kufelke's Kindermehl	72
Kuhpockenimpfung	321
Kuhmilch	38
—, Verdünnung der	61

L

Lactosurie	10
Laktagoga	50
Landkartenzunge	82, 252
Leberabscess	535
Lebercirrhosen	536
—, atrophische od. Laennec'sche	536
—, Blutstauungs	537
—, hypertrophische od. Henle'sche	537
—, durch congenitale Obliteration der Gallengänge	538
Liebig's Malzsuppe	70, 181
Lingua geographica	82, 252
Loefflund's Nährmaltose	69
— peptonisirte Milch	68
Lumbalpunktion	89

	Seite		Seite
Lungen	86	Nasendiphtherie	344
Lymphatismus, Heubner	276	Nervenlähmungen	141
Lympher, Vakzination	323	— des Plexus brachialis	141
M			
Magen	7	Nervensystem	14, 88
—, Kapazität des	7	Nervöse Anorexie	456
Magenerweiterung	458	Nervöse Erbrechen	456
Magenspülung	108	Nestle's Kindermehl	72
Magermilch	66	Neugeborene, Krankheiten der	118
Mahlzeiten bei Brusternährung	33	Neuro-Arthritismus, Comby	258
— — d. künstlichen Ernährung	65	Noma, Wasserkrebs	429
Malaria	406	O	
Masern, Morbilli	294	Obstipation	508
Mastitis neonatorum	163	Oesophagus, Veractzung der	433
Mehlnährschaden	221	Oesophagussoor	435
Mekonium	11	Oxyopathie, Stölnzer	249
Melaena neonatorum	128	P	
Meningitis cerebrospinalis epidemica	408	Paratyphus	372
Méry's Gemüsebouillon	215	Parotitis epidemica, Mumps	398
Mesenterial- u. Retroperitoneal- drüsentuberculose	522	Pasteurisieren der Milch	40
Milch	28	Peritonitis tuberculosa	523
—, Dauermilch	30	— adhaesiva	523
—, Erstlingsmilch	28	—, citrige	517
—, Zusammensetzung der	31	— exsudativa	523
Milchspeien	227	— d. Neugeborenen	517
Milchzahn	27	Pest	402
Milz	13	Persistenz des Ductus omphalomesen- tericus	147
Monothermie des Säuglings	6	Physiologisches Geifern	7
Moros Karottensuppe	215	— Gewichtabnahme	20
Mundhöhle	6, 82	— Hypertonie der Muskulatur	15
N			
Nabelblutung	155	— Schielen	15
Nabelerkkrankungen	144	— Tätigkeit	16
Nabelgangrän	148	Plus	2
Narcotica	111	Pneumokokkenperitonitis	517
		Pocken, Blättern	318
		Poikilothermie des Säuglings	6

	Seite		Seite
Prolapsus recti	485	— ulcerosa, Stomakake	427
Pyloro-pasmus	454	Streptokokkenperitonitis	520
Pylo:usstenose d. Säuglinge	449	T	
—, hypertrophische	449	Tetanus neonatorum	152
R			
Rachen	83	Theinhardt's Kindernahrung	72
Rattenbisskrankheit	419	Thoracheotomie	357
Reflex	15	Thymustod	271
Rektale Instillation	105	Tonica	112
Respirationsapparat	4	Tussis convulsiva	385
Ringer'sche Lösung	105	Typhus abdominalis	361
Röteln, Rubeola	313	U	
Rubeola scarlatinosa	313	Ulcera pterygoidea	425
S			
Salzfeber	68	Ulcus rotundum	458
Sauerstoff, Einatmung	103	— umbilici	149
Säuglingskakke	242	— frenuli linguae bei Keuchhusten	390
Scarlatina sine exanthemate	284	Unterernährung (Inanition)	226
Scharlach	278	Untersuchungstechnik	73
Schlaf	16	— der Brustorgane	84
Schlafmittel	111	— der Bauchorgane	87
Septische Infektion d. Neugeborenen	156	Urachusfistel	147
Serumbehandlung bei Diphtherie	354	Uringewinnung beim Säugling	87
Serumkrankheit	355	Uropoetisches Apparat	13
Sklerema neonatorum	133	V	
Soor	426	Vakzination	321
Soxhlet's Nährzucker	69	Variola, Pocken	318
Status thymicolymphaticus	266	Variolation	322
Sterilisation der Kuhmilch	40	Varizellen	314
Stillhindernisse	46	Vierte Krankheit	313
Stomatitis	423	Voltmer's „Muttermilch“	67
— aphthosa, Mundfäule	424	W	
— catarrhalis	423	Wasserkrebs	429
— gangraenosa	429	Weilsche Krankheit	532
— septica	424		



終

